吉原第一ポンプ場建築改修工事

発　注　図

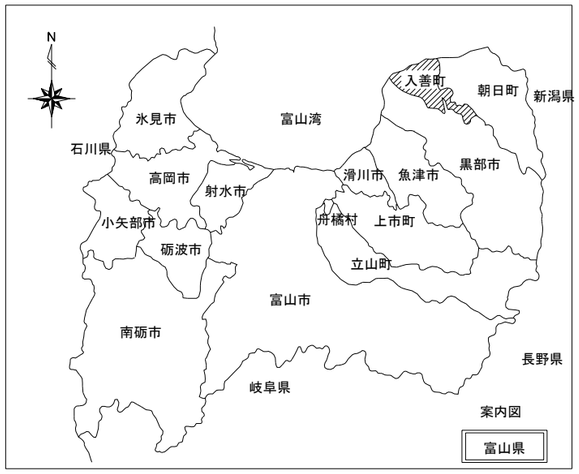
令和７年度

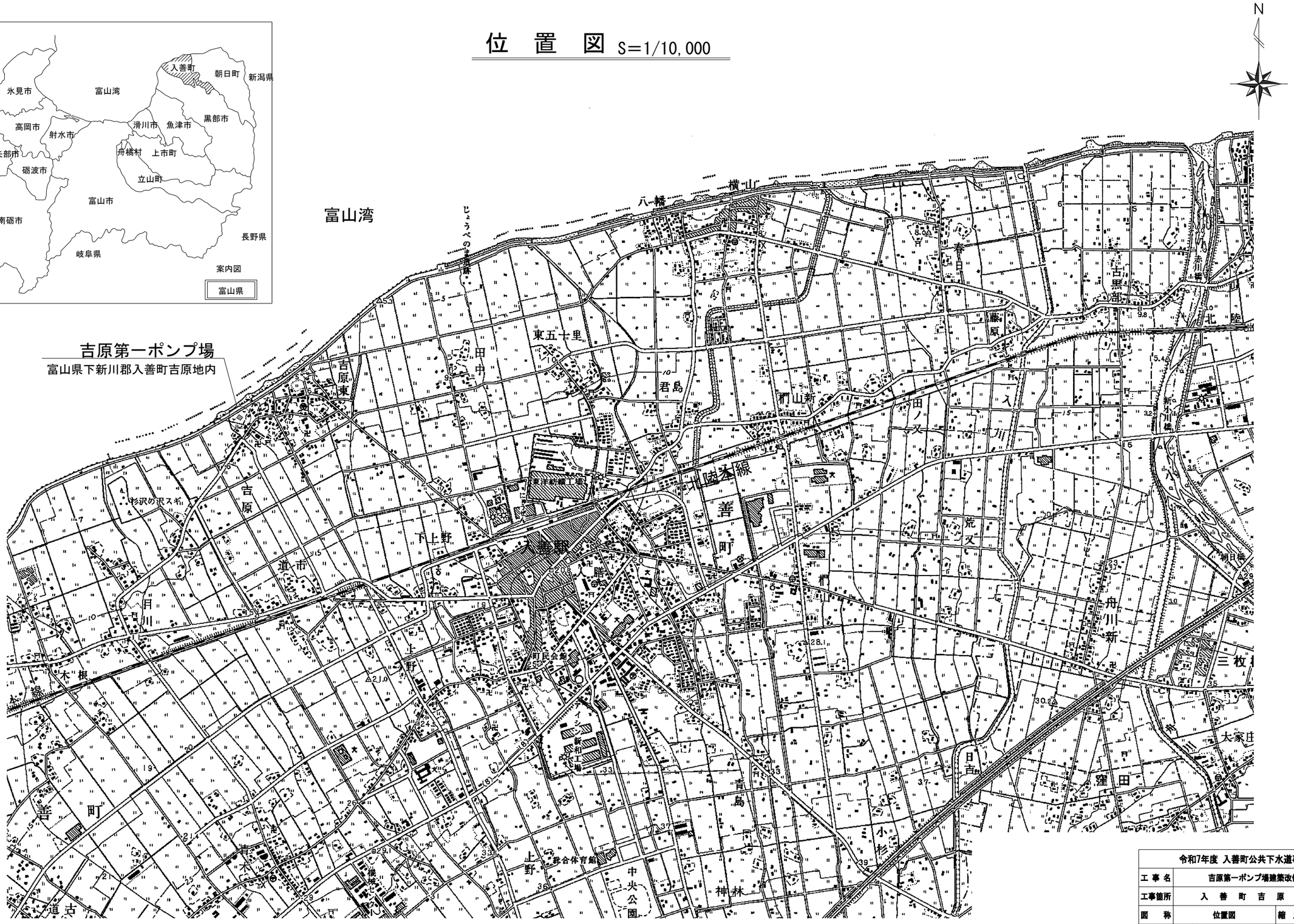
富　山　県　入　善　町

図　面　目　録

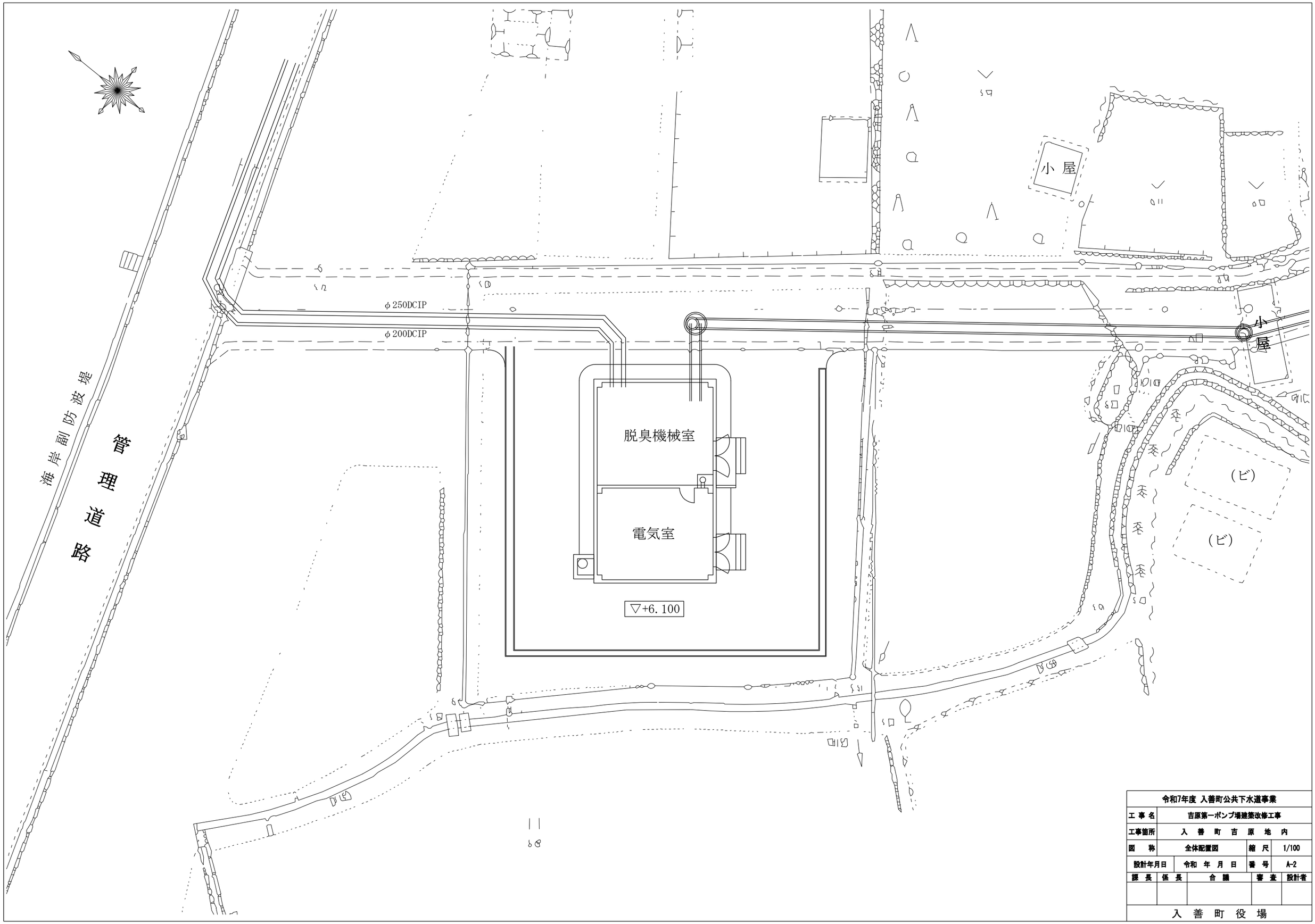
番　号	図　面　名　称	縮　尺
A　－　1	位置図	1/10,000
A　－　2	全体配置図	1/800
A　－　3	建築改修工事特記仕様書（1）	NONE
A　－　4	建築改修工事特記仕様書（2）	NONE
A　－　5	建築改修工事特記仕様書（3）	NONE
A　－　6	建築改修工事特記仕様書（4）	NONE
A　－　7	建築改修工事特記仕様書（5）	NONE
A　－　8	建築改修工事特記仕様書（6）	NONE
A　－　9	建築改修工事特記仕様書（7）	NONE
A　－　10	建築改修工事特記仕様書（8）	NONE
A　－　11	平面図・断面図（改修前）	1/50
A　－　12	平面図・断面図（改修後）	1/50
A　－　13	立面図（改修前）	1/50
A　－　14	立面図（改修後）	1/50
A　－　15	建具表・建具詳細図	1/50
A　－　16	改修詳細図	1/10
A　－　17	仮設計画平面図（参考図）	1/50

位　置　図 S=1/10,000





令和7年度 入善町公共下水道事業				
工事名	吉原第一ポンプ場建築改修工事			
工事箇所	入善町吉原地内			
図　称	位置図	縮　尺	1/10,000	
設計年月日	令和　年　月　日	番　号	A-1	
課　長	係　長	合　議	審　査	設計者
入善町役場				



令和7年度 入善町公共下水道事業				
工事名	吉原第一ポンプ場建築改修工事			
工事箇所	入善町吉原地内			
図称	全体配置図	縮尺	1/100	
設計年月日	令和 年 月 日	番号	A-2	
課長	係長	合議	審査	設計者
入善町役場				

特記仕様書

１．本特記仕様書は、本工事における建築関連工事に適用する。

２．本特記仕様書における採用事項

①．項目欄は番号等に ◯印を附したものを適用する。

②．項目欄に (・) 印を附し特記事項欄に (・) 印を附していない場合は標準仕様書による。

③．特記事項は (・) 印を附したものを適用する。但し (・) 印の付かない場合は※印の附した事項を採用する。

(・) 印と ㊟ 印を附した場合は共に適用する。

３．本特記仕様書に記載なき事項については下記による。

(・)国土交通省大臣官房長官営繕部監修　公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版

(・)国土交通省大臣官房長官営繕部監修　公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版

・国土交通省大臣官房長官営繕部監修　建築物解体工事共通仕様書　令和４年版

４．その他事項

・各項目欄の番号(例：1.4 〇〇〇) は標準仕様書の番号（章番号を除く）に照合する

・各項目欄の番号(例：表〇.〇.〇、及び図〇.〇.〇)は標準仕様書の各表、及び図番号に該当する項目とする

・各項目欄の番号(例：●公〇章***、公***、●公***) は公共建築工事標準仕様書の各項目に相当する

・各項目欄の番号(例：1.＊ 〇〇〇) は標準仕様書の番号（章番号を除く）に該当しない項目とする

章	項　目	特記事項
1章 各章共通事項	1.4 工事実績情報登録	(CORINS)への登録：　・行う　・行わない
	(1.＊)建築基準法の風圧	基準風速：　・Ｖｏ＝３４(m/s)　平成12年建告第1454号第2
	(・)積雪に関する規定	地表面粗度区分：　・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ
		積雪区分：　・区域=(32)／α=0.0009／β=0.00／γ=0.21／R=0
		平成12年建告第1445号　別表
	(2.4)工事の記録等	工事報告書の書式等：　・協議により決定　・指定の書式　・任意の書式　・
	(3.3)電気保安技術者	技術者の配置：　・配置する（・常駐　・非常駐）　(・)配置しない
	(3.5)施工条件	施工順序等の制約：　(・)無し　・有り【・現場説明書による　・図示　・　】
		工事車両の駐車場所：　・図示　(・)現場説明書による　・
		資材、機材置場　：　・図示　(・)現場説明書による　・
		発生土仮置場　：　・図示　・現場説明書による　・
		その他の施工条件　：　・図示　(・)現場説明書による　・
	(3.12)発生材の処理等	発注者への引渡発生材：　※金属類及びPCB含有物　・図示
		特別管理産業廃棄物の有無：　・無し　(・)有り【分類；　(・)図示　・　】
		発生材のリサイクル：　(・)図示　・
		ひ素・カドミウム含有せっこうボードの処理：
		・製造業者処分委託　・管理型最終処分場埋立処分
		石綿・ひ素・カドミウム非含有せっこうボードの処理：
		(・)管理型最終処分場埋立処理　・再資源化施設での再資源化
		ＰＣＢ含有シーリングの調査方法：　・図示　・
		ＰＣＢ含有シーリングの撤去方法：　・図示　・
		特別管理産業廃棄物の分析調査：　(・)行わない　・行う
	(4.＊)使用材料	(・)仮設材以外の全ての建築材料（仕上材、下地材、副資材）のホルムアルデヒド放散量はＪＩＳ等の材料規格において放散量が規定されている場合は原則としてＦ☆☆☆☆とする。但し使用予定材料にＦ☆☆☆☆が存在しない場合は監督員と協議のうえ決定する。
	(5.1)事前調査	調査範囲：　(・)図示　・
		既存設計図書の貸与：　(・)貸与する　・貸与しない
		石綿含有建材の調査報告書の貸与：　(・)貸与する　・貸与しない
		石綿含有建材の分析調査：　・行う【　・定性分析　・定量分析　】　(・)行わない
	6.2 施工数量調査	調査範囲：　・図示　・
		調査方法：　・非破壊検査　・破壊検査　・
	6.3 調査のための破壊部分の補修	補修方法：　・破壊検査後の復旧に関しては監督員と協議の上決定する
		・図示　・
	(7.5)施工の検査等	見本施工の実施：　(・)実施しない　・実施する【実施箇所等：　・図示　・　】
	7.9 化学物質の濃度測定	濃度測定：　・未実施　・実施
		化学物質濃度を下記のとおり測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し報告すること。
		測定対象物質：　・ホルムアルデヒド　・トルエン　・キシレン　・エチルベンゼン　・スチレン　・図示
		測定方法：　・簡易法　・パッシブ型採取機器　・測定バッジ；
		測定対象室：　・図示　・
		測定箇所数：　・図示　・　箇所
		・厚生労働省の標準的測定方法による場合の測定者は、環境計量証明事業所として登録を行っている者、又は作業環境測定事業所の有機溶剤の登録を行っている者とする。
	8.2 技術検査	中間技術検査の実施：　・実施しない　・実施する【実施箇所等：　・図示　・　】
	(9.1)完成時の提出図書	完成図　：　(・)必要　・不要
		保全に関する資料：　(・)必要　・不要
		提出部数：　※各２部　・　部
	(9.2)完成図	種類：　※表1.9.1　・一般図　・実施設計竣工図一式　・施工承認図　・
		記入内容：　※表1.9.1　・図示　・
		提出要領：　(・)データ形式【　・ＣＡＤ　・ＰＤＦ　(・)　】
		・Ａ３原稿２つ折り製本　(・)

章	項　目	特記事項
2章 仮設工事	1.3 騒音・粉じん等の対策	騒音・粉じん等の対策：　・防音パネル　(・)防音シート
		防音パネル等の設置範囲：　・図示　・
	(2.1)足場等	内部足場の種別：　・脚立　・足場板　・ﾛｰﾘﾝｸﾞﾀﾜｰ　(・)単管本足場
		外部足場の設置、種別：　・設置しない　(・)設置する【(・)枠組足場　・単管足場　・　】
		保護シートの設置：　(・)設置する　・設置しない
		材料等の運搬方法：　・A種　・B種　・C種　(・)D種　・E種
	(3.1)既存部分の養生	既存部分養生材料：　(・)ﾋﾞﾆｰﾙｼｰﾄ　・その他：施工者にて適材適所を選択する
		既存家具養生材料：　・ﾋﾞﾆｰﾙｼｰﾄ　・その他：施工者にて適材適所を選択する
		既存ブラインド、カーテンの養生方法：
		・指定場所に保管し再設置　・指定場所に保管し清掃の上再設置　・
	(3.2)仮設間仕切り	仮設間仕切り：　・無し　(・)有り
		設置箇所：　(・)図示　・
		種　別：　・A種　(・)B種　・C種
		仮設扉：　(・)不要　・必要【設置箇所：　・図示　・任意の場所　・　】
		仮設扉の種別：　・鋼製　・木製　・図示　・
	(4.1)監督職員事務所等	監督職員事務所の設置：　・必要　(・)不要
		◎監督員事務所の規模、設備、備品等
		・（　）号（会議室（　）㎡ を含む）
		・（　）号に会議室（　）㎡ を加えた規模
		・専用電話　・兼用FAX　・冷暖房機　・机　・椅子　・書棚　・検査用具　・その他；
		受注者事務所の設置：　・必要　・不要
		◎受注者事務所の規模、設備、備品等
		・（　）号（会議室（　）㎡ を含む）
		・（　）号に会議室（　）㎡ を加えた規模
		・専用電話　・兼用FAX　・冷暖房機　・机　・椅子　・書棚　・検査用具　・その他；
	(4.＊)工事用水及び電力	構内既存の用水施設：　(・)利用できない　・利用できる（・有償　・無償）
		構内既存の電力施設：　(・)利用できない　・利用できる（・有償　・無償）
		・動力以外利用できる（・有償　・無償）
3章 防水改修工事		１．共通事項
	1.1 一般事項	防水工事の保証書の提出及び保証年限
		・保証年限10年；ｱｽﾌｧﾙﾄ防水　・合成高分子ﾙｰﾌｨﾝｸﾞ防水
		・保証年限５年；塗膜防水　・その他；
		＜保証書（請負人、材料製造所、防水施工者の連帯保証）は各２通提出する．防水施工者は、防水材料製造所の施工者とし、監督員の承諾を受ける＞
	1.3 施工一般	降雨等による養生方法：　※標準仕様書による　・図示　・
		◎防水改修工法の種類

(1.4 改修工法の種類及び工程)

施工部位	工法の種類	備考(特記工程)
・屋上防水押え	P1B工法	
・ﾙｰﾌﾊﾞﾙｺﾆｰ防水押え	POS機械工法	*1工程有り
・浴室防水押え		*2工程無し
	M4SI工法	

◎シーリング改修工法の種類

施工部位	工法の種類	備　考
・外壁ｺﾝｸﾘｰﾄ打継目地	ｼｰﾘﾝｸﾞ充填工法	
・外壁ｺﾝｸﾘｰﾄ誘発目地	ｼｰﾘﾝｸﾞ再充填工法	
・外壁開口部建具廻り目地	拡幅 ｼｰﾘﾝｸﾞ再充填工法	
・ｴｯｼﾞﾝｸﾞ材の取付、撤去	ﾌﾞﾘｯｼﾞ工法	

２．既存防水層等の撤去及び既存下地の処理

2.5 ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ回りの処理　２重ドレンの設置：　・行わない　・行う（施工箇所；

2.6 既存下地の処理　補修箇所の形状、長さ、数量等：　・下表による　・図示　・

施工部位	形状・長さ数量等	備　考
・脆弱部の補修	㎡	
・既存目地の欠損部補修	ｍ	
・欠損部の補修	㎡	
・防水層表面の仕上げ塗装の除去	㎡	

既存防水層表面の仕上げ塗装の除去：　・行わない　・行う

立上り防水層の処置：

・撤去する　・撤去しない【補修方法：　・標準仕様書3.2.6(4)による）　・図示】

設備架台等防水層取り合い部の処置：　・協議による　・図示　・

３．アスファルト防水

3.2 材　料

改質アスファルトルーフィングシートの種別・厚さ：

※表3.3.3～3.3.9による　・製造所仕様による

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングの種別・厚さ：

※表3.3.3～3.3.9による　・製造所仕様による

防水押え金物：　・製造所推奨の金物　※Al製L-30x15x2.0程度

保護防水断熱工法の断熱材の材質：　・図示　・製造所仕様による

保護防水断熱工法の断熱材の厚さ：　・図示　・50㎜　・35㎜　・

露出防水断熱工法の断熱材の材質：　・図示　・製造所仕様による

露出防水断熱工法の断熱材の厚さ：　・図示　・50㎜　・35㎜　・

章	項　目	特記事項
3章 防水改修工事	3.2 材　料	絶縁シートの材料の指定：　※標準仕様書による　・製造所仕様による
		保護コンクリートの設計基準強度：　※18N/mm2　・21N/mm2　・
		保護コンクリートのスランプ：　※18cm　・15cm　・
		防水層立上り部の保護の種類：　・乾式保護【・押出成形ｾﾒﾝﾄ板　・図示　】
		・湿式保護【・ﾓﾙﾀﾙ　・普通れんが(JIS R 1250)　・図示　】
	3.3 種別及び工程	◎屋根保護防水
		防水立上りの保護コンクリートの適用：　・適用しない　・適用する
		防水立上りの保護コンクリートの工法：　・図示　・

施工部位	工法／種別	備　考
・PHR階屋上	・P1B／・B-1　・B-2	
・R階屋上	・P1BI／・BI-1　・BI-2	断熱材：t=
	・T1BI／・BI-1　・BI-2　・BI-3	断熱材：t=
	・P2AI／・AI-1　・AI-2　・AI-3	断熱材：t=
	・P2A／・A-1　・A-2　・A-3	

◎屋根露出防水

施工部位	工法／種別	備　考
・PHR階屋上	・M4C／・C-1　・C-2　・C-3　・C-4	仕上塗料；
・R階屋上	・M3D／・D-1　・D-2	仕上塗料；
	・POD／・D-1　・D-2	仕上塗料；

◇M3D工法及びPOD工法の脱気装置

脱気装置の種類：　※製造所仕様による　・図示　・

脱気装置の設置数量：　※製造所仕様による　・図示　・

◎屋根露出防水絶縁断熱工法

施工部位	工法／種別	備　考
・PHR階屋上	・PODI／・DI-1　・DI-2	仕上塗料；
・R階屋上	・M3DI／・DI-1　・DI-2	仕上塗料；
	・M4DI／・DI-1　・DI-2	仕上塗料；

脱気装置の種類：　※製造所仕様による　・図示　・

脱気装置の設置数量：　※製造所仕様による　・図示　・

◎屋内防水

施工部位	工法／種別	備　考
・浴室	・P1E／・E-1　・E-2	保護層：普通ｺﾝｸﾘｰﾄ
・機械室	・P2E／・E-1　・E-2	保護層：軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ
		保護層：ﾓﾙﾀﾙt=30

3.4 施　工　ルーフドレン廻りの断熱材の張仕舞い位置：　・製造ﾒｰｶｰ推奨による　・図示

3.5 保護層等の施工　保護層のコンクリートの厚さ：　・100㎜　※80㎜　※60㎜　・図示　・

床面コンクリートの平坦さ：　表8.1.5【・a種　・b種　・c種】

防水立上がり部の保護：　・露出　・ｺﾝｸﾘｰﾄ　・ﾚﾝｶﾞ押え　・乾式保護材：

屋上排水溝：　・設置する　・設置しない

４．改質アスファルトシート防水

4.2 材　料

改質アスファルトシートの種別・厚さ：　※表3.4.1～3.4.3による　・製造所仕様による

粘着層付改質アスファルトシートの種別・厚さ：　※表3.4.1～3.4.3による　・製造所仕様による

露出防水断熱工法の断熱材の材質：　・図示　・製造所仕様による

露出防水断熱工法の断熱材の厚さ：　・図示　・50㎜　・35㎜　・

4.3 種別及び工法

◎屋根露出防水密着工法

施工部位	工法／種別	備　考
・PHR階屋上	・M4AS／・AS-T1・AS-T2・AS-J2	
・R階屋上		

◎屋根露出防水絶縁工法

施工部位	工法／種別	備　考
・PHR階屋上	・M3AS／・AS-T3・AS-T4・AS-J1・AS-J3	脱気装置：・設置
・R階屋上	・POAS／・AS-T3・AS-T4・AS-J1・AS-J3	脱気装置：・設置

◎屋根露出防水絶縁断熱工法

施工部位	工法／種別	備　考
・PHR階屋上	・M3ASI／・ASI-T1　・ASI-J1	防湿層：・設置 脱気装置：・設置
・R階屋上	・M4ASI／・ASI-T1　・ASI-J1	防湿層：・設置 脱気装置：・設置
	・POASI／・ASI-T1　・ASI-J1	防湿層：・設置 脱気装置：・設置

令和7年度　入善町公共下水道事業			
工事名	吉原第一ポンプ場建築改修工事		
工事箇所	入　善　町　吉　原　地　内		
図　称	建築改修工事特記仕様書 (1)	縮　尺	1/-
設計年月日	令和　年　月　日	番　号	A-3

課　長	係　長	合　議	審　査	設計者

入　善　町　役　場

Copyright (c) 2013 AAT+Library All Rights Reserved

章	項 目	特記事項
3章 防水改修工事		５．合成高分子系ルーフィングシート防水
	5.2 材 料	ルーフィングシートの種類・厚さ： ※表3.5.1～3.5.3による ・
		絶縁用シート： ※発泡ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰﾄ ・図示 ・
		固定金具の材質： ・ｽﾃﾝﾚｽ ・亜鉛めっき鋼板 ・図示 ・製造所仕様による
		機械固定工法の断熱材の材質： ・図示 ・製造所仕様による
		機械固定工法の断熱材の厚さ： ・図示 ・50mm ・35mm ・
		接着工法の断熱材の材質： ・図示 ・製造所仕様による
		接着工法の断熱材の厚さ： ・図示 ・50mm ・35mm ・
	5.3 種別及び工程	

工法種別	種類／種別	厚さ(mm)
S-F1(SI-F1)	・加硫ｺﾞﾑ系／・均質ｼｰﾄ・複合ｼｰﾄ	※1.2 ・1.5 ・2.0
S-F2(SI-F2)	・ｴﾁﾚﾝ酢酸ﾋﾞﾆﾙ樹脂系／・均質ｼｰﾄ	・1.2 ・1.5 ※2.0
S-M1(SI-M1)	・加硫ｺﾞﾑ系／・均質ｼｰﾄ・複合ｼｰﾄ	・1.2 ※1.5 ・2.0
S-M2(SI-M2)	・ｴﾁﾚﾝ酢酸ﾋﾞﾆﾙ樹脂系／・均質ｼｰﾄ	・1.2 ※1.5 ・2.0
S-M3(SI-M3)	・塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂系／・均質ｼｰﾄ・複合ｼｰﾄ	※1.2 ・1.5 ・2.0

施工部位	工法／種別	備 考
・PHR階屋上	・POS ・SOSI ・S4S ・S4SI／ ・S-F2 ・SI-F2	
・R階屋上	・S3S ・S3SI／ ・S-F1 ・SI-F1	
	・M4S ・M4SI／ ・S-M1 ・SI-M1	
	・S-M2 ・SI-M2	
	・P1S／・S-C1	

章	項 目	特記事項
		脱気装置：・設置
		断熱材の種類： ・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ3種B(ｽｷﾝ付) ・図示 ・
		断熱工法の断熱材の厚さ： ・25mm ・35mm ・50mm ・
	5.4 施 工	目地処理（防水種別S-C1の場合）：
		PCｺﾝｸﾘｰﾄ下地の場合： ・図示 ・
		ALCﾊﾟﾈﾙ下地の場合： ・図示 ・
		入隅部の増張り（防水種別S-C1の場合）：
		PCｺﾝｸﾘｰﾄ下地の場合： ・図示 ・
		ALCﾊﾟﾈﾙ下地の場合： ・図示 ・
		機械的固定工法の場合の風圧力に対応した工法： ・製造所仕様による ・
		保護層の施工（防水種別S-C1の場合）：
		平場のﾓﾙﾀﾙ床塗り厚さ： ・30mm ・
		平場のｺﾝｸﾘｰﾄの厚さ： ・60mm ・80mm ・
		立上りのﾓﾙﾀﾙ塗りの厚さ： ※7mm以下 ・
		６．塗膜防水
	6.3 種別及び工程	

施工部位	工法／種別	備 考
・PHR階屋上	・POX／・X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H	脱気装置：・設置
・R階屋上	・L4X／・X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H	脱気装置：・設置
	・P1Y／Y-2 ・P2Y／Y-2	

章	項 目	特記事項
		仕上塗装の種類： ・製造所仕様による ・遮熱塗料 ・
		仕上塗装の使用量： ・
		◎脱気装置
		種 類 ： ※製造所指定 ・
		設置数量： ※製造所指定 ・
		保護層： ・設置する ・設置しない
		７．シーリング
	7.2 材 料	種類及び施工箇所： ・種類は表3.7.1により施工箇所は下表による
		ノンブリードタイプシーリング材の適用： ※使用する ・使用しない
		施工箇所： ・ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞで仕上げありの部位 ・
	7.3 目地寸法	

施工部位	シーリング材の種類	目地寸法(mm)	保証年限
・各階打継部分	※表3.7.1による	15(W)x10(D)	3 年
・ﾀｲﾙ伸縮目地		15(W)x10(D)	年
・ｶﾞﾗｽ止め付け		5(W)x 5(D)	年
・ｻｯｼ廻り		20(W)x10(D)	年
			年

章	項 目	特記事項
	7.8 ｼｰﾘﾝｸﾞ材の試験	※簡易接着性試験 ・引張接着性試験
	7.＊ 保証年限	シーリング保証書： ・提出する ・提出しない
		・保証書（請負人、材料製造所、ｼｰﾘﾝｸﾞ施工者連帯保証）は各２通提出すること。
		８．とい
	8.2 材 料	軒どいの材種： ・ｱｽﾌｧﾙﾄ被覆鋼板 ・耐候性被覆鋼板 ・
		縦どいの材種： ・配管用鋼管 ・塩化ﾋﾞﾆﾙ管【・ｶﾗｰVP ・VP ・ｶﾗｰVU ・ 】
		掃除口： ・有 ・無
		飾り桝： ・塩ビ製 ・銅板製 ・
3章 防水改修工事	8.2 材 料	とい受け金物及び足金物の材質： ※表3.8.2 ・図示
		軒樋の取付間隔： ※表3.8.2 ・0.9m ・1.2m
		竪樋の取付間隔： ※表3.8.2 ・1.2m ・1.5m ・図示
		ルーフドレイン： ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・鋳鉄製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製
	8.3 工 法	既存といの撤去及び降雨時の養生： ・仮設のといを設置する ・図示 ・
		鋼管製といの防露巻き： ・行う ・行わない
		施工箇所： ※表3.8.4による ・図示
		ルーフドレンの取替え： ・行わない ・行う【・3.8.3(8)による ・ 】
		９．アルミニウム製笠木
	9.2 材 料	

施工部位	工法／種別	備 考
2Fﾊﾞﾗﾍﾟｯﾄ	・250形 ・300形 ・350形	折曲げ形状は図示
RFﾊﾞﾗﾍﾟｯﾄ	・ｵｰﾌﾞﾝ形式 ・ｼｰﾙ形式	折曲げ形状は図示

章	項 目	特記事項
	9.3 工 法	アルミニウム製笠木の厚み： ※2.0mm ・
		笠木本体の表面処理： ・AB-1 ・AB-2 ・AC-1 ・BA-1 ・BB-1 ・BC-1 ・C
		新規笠木の下地及び撤去後の補修： ・
		板材折曲げ型笠木の取付方法： ・図示 ・
4章 外壁改修工事		１．共通事項
	1.4 改修工法の種類	◎コンクリート打放し仕上げ外壁
		ひび割れ部改修工法の種類： ・樹脂注入工法 ・Uｶｯﾄｼｰﾙ材充填工法 ・ｼｰﾙ工法
		欠損部改修工法の種類： ※充填工法 ・
		◎モルタル塗り仕上げ外壁
		ひび割れ部改修工法の種類： ・樹脂注入工法 ・Uｶｯﾄｼｰﾙ材充填工法 ・ｼｰﾙ工法
		欠損部改修工法の種類： ・充填工法 ・ﾓﾙﾀﾙ塗替え工法
		浮き部改修工法の種類：
		・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法
		・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ樹脂注入工法 ・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法
		・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ樹脂注入工法
		・充填工法 ・ﾓﾙﾀﾙ塗り替え工法
		◎タイル張り仕上げ外壁
		欠損部改修工法の種類： ・ﾀｲﾙ部分張替え工法 ・ﾀｲﾙ貼り替え工法
		浮き部改修工法の種類：
		・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法
		・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ樹脂注入工法 ・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法
		・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ樹脂注入工法
		・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞｴﾎﾟｷｼ樹脂注入ﾀｲﾙ固定工法 ・ﾀｲﾙ部分張替え工法 ・ﾀｲﾙ貼り替え工法
		目地改修工法の種類： ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮目地改修工法
	1.5 改修後の塗仕上げの種類	◎塗り仕上げ外壁
		新規仕上げの種類：
		・薄付け仕上塗材塗り ・厚付け仕上塗材塗り ・複層仕上塗材塗り
		・可とう形改修用仕上塗材塗り ・各種塗料塗り ・マスチック塗材塗り
		２．コンクリート打放し仕上げ外壁の改修
	2.4 材 料	樹脂注入工法のエポキシ樹脂： ・低粘度形 ・中粘度形
		Uカットシール材充填工法用材料：
		・ｼｰﾘﾝｸﾞ材【※1成分形ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系 ※2成分形ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系 ・ 】
		・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂 ・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ
		シール工法用材料： ・ﾊﾟﾃ状ｴﾎﾟｷｼ樹脂 ・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂
		充填工法用材料： ・ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ ・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ
	2.5 樹脂注入工法	注入工法の種類： ※自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ・手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法
		・機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ・
		◎自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
		注入間隔： ※200～300mm ・300～400mm ・
		注入量： ・約 cc/m
		◎手動式エポキシ樹脂注入工法
		注入間隔： ・200～300mm ・300～400mm ・
		◎機械式エポキシ樹脂注入工法
		注入間隔： ・200～300mm ・300～400mm ・
		コア抜取り検査： ・行わない ・行う【個数： ※１個／500m ・ 】
		コア抜き取り部の補修方法： ・ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ充填 ・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ充填 ・
	2.6 Uｶｯﾄｼｰﾙ材充填工法	◎充填
		充填材： ・ｼｰﾘﾝｸﾞ用材充填 ・ｼｰﾘﾝｸﾞ材の上にﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ充填 ・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂充填 ・
		３．モルタル塗り仕上げ外壁の改修
	3.5 材 料	モルタル塗替え工法用材料： ・現場調合ﾓﾙﾀﾙ ・既調合ﾓﾙﾀﾙ
		アンカーピンニング（注入口付アンカーピンニング）注入工法用材料：
		ポリマーセメントスラリー： ・図示 ・
		アンカーピンの材質： ※ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304・φ4mm・全ﾈｼﾞ) ・図示 ・
		注入口付アンカーピンの材質： ※ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304・φ6mm) ・図示 ・
4章 外壁改修工事	3.6 樹脂注入工法	◎自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
		注入間隔： ※200～300mm ・300～400mm ・
		注入量： ・約 cc/m
		◎手動式エポキシ樹脂注入工法
		注入間隔： ・200～300mm ・300～400mm ・
		◎機械式エポキシ樹脂注入工法
		注入間隔： ・200～300mm ・300～400mm ・
		コア抜取り検査： ・行わない ・行う【個数： ※１個／500m ・ 】
		コア抜き取り部の補修方法： ・ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ充填 ・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ充填 ・
	3.7 Uｶｯﾄｼｰﾙ材充填工法	◎充填
		充填材： ・ｼｰﾘﾝｸﾞ用材充填 ・ｼｰﾘﾝｸﾞ材の上にﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ充填
		・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂充填 ・
	3.10 ﾓﾙﾀﾙ塗替え工法	塗り厚が25mmを超える場合： ・図示 ・
	3.11～3.16 ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ***工法	◎アンカーピンニング工法

工法名称	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ(本/㎡) 一般部分	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ(本/㎡) 指定部分	注入孔数(箇所/㎡) 一般部分	注入孔数(箇所/㎡) 指定部分	１箇所当り充填量(cc)
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	16	25	16	25	※25
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	13	20	12	20	※25
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ樹脂注入工法	13	20	12	20	※50
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※9	※16	9	16	※25
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ樹脂注入工法	9	16	9	16	※50

章	項 目	特記事項
		４．タイル張り仕上げ外壁の改修
	4.5 材 料	タイル張替え用接着剤： ・ｴﾎﾟｷｼ樹脂系 ※変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系 ・
		タイルの種類： ・図示 ・下表による ・

施工箇所	形式・形状寸法(mm)	用途による区分	耐凍害性 有	耐凍害性 無	色 標準	色 特注	釉薬 施釉	釉薬 無釉	備 考
			・	・	・	・	・	・	・役物
			・	・	・	・	・	・	・役物
			・	・	・	・	・	・	・役物

章	項 目	特記事項
		タイル張付けモルタル： ・現場調合ﾓﾙﾀﾙ ・既調合ﾓﾙﾀﾙ ・
		シーリング材： ※標準仕様書に準ずる ・
	4.6 樹脂注入工法	注入工法の種類： ・自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ・手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法
		注入工法の種類： ※自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ・手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法
		・機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ・
		◎自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
		注入間隔： ※200～300mm ・300～400mm ・
		注入量： ・約 cc/m
		◎手動式エポキシ樹脂注入工法
		注入間隔： ・200～300mm ・300～400mm ・
		◎機械式エポキシ樹脂注入工法
		注入間隔： ・200～300mm ・300～400mm ・
		コア抜取り検査： ・行わない ・行う【個数： ※１個／500m ・ 】
	4.7 ﾀｲﾙ部分張替え工法	部分張替え面積の程度： ※0.25㎡程度以下 ・0.30㎡程度以下
	4.8 ﾀｲﾙ張替え工法	伸縮調整目地の位置： ※表4.4.2による ・図示 ・
		誘発目地の位置： ※表4.4.2による ・図示 ・
		タイルの見本焼き： ・行わない ・行う
		タイルの試験張り： ・行わない ・行う
		◎セメントモルタルによるタイル張り
		下地モルタル塗りコンクリート素地面処理： ・素肌 ・目荒し工法
		タイル下地モルタルの接着力試験： ・行う ・行わない

施工部位	工法	接着力試験
	・密着張り ・改良圧着張り	・行う ・行わない
	・ﾏｽｸ張り ・ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ張り	

章	項 目	特記事項
		◎有機系接着剤によるタイル張り
		下地調整塗材塗りコンクリート素地面処理： ・素肌 ・目荒し工法
		下地調整塗材塗りの接着力試験： ・行う ・行わない

令和7年度 入善町公共下水道事業				
工 事 名	吉原第一ポンプ場建築改修工事			
工事箇所	入 善 町 吉 原 地 内			
図 称	建築改修工事特記仕様書 (2)		縮 尺	1/-
設計年月日	令和 年 月 日		番 号	A-4
課 長	係 長	合 議	審 査	設計者
入 善 町 役 場				

Copyright (c) 2013 AATelibrary All Rights Reserved

章	項目	特記事項

4章 外壁改修工事

4.9～4.15 ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ等工法

◎アンカーピンニング等工法

工法名称	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ(本/㎡) 一般部分	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ(本/㎡) 指定部分	注入孔数(箇所/㎡) 一般部分	注入孔数(箇所/㎡) 指定部分	1箇所当り充填量(cc)
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	16	25	16	25	※25
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	13	20	12	20	※25
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ樹脂注入工法	13	20	12	20	※50
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※9	※16	9	16	※25
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ樹脂注入工法	9	16	9	16	※50
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入ﾀｲﾙ固定工法					

指定部分：見上げ部、庇の鼻先、まぐさ隅部

4.16 目地改修工法

伸縮調整目地の位置： ※表4.4.2による ・図示 ・

５．塗り仕上げ外壁等の改修

⑤.2材 料

◎薄付仕上塗材の施工箇所： ・図示 ・

材料の防火指定： ・無 ・有（

種類（呼び名）	仕上げの形状	工 法
・外装薄塗材Ｓｉ	・砂壁状・ゆず肌状	吹付け
	・ゆず肌状・さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
・可とう形外装薄塗材Ｓｉ	・砂壁状・ゆず肌状	吹付け
	・ゆず肌状・さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状・ゆず肌状・着色骨材砂壁状	吹付け
	・平たん状・凹凸状・着色骨材砂壁状	こて塗り
	・ゆず肌状・さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
・可とう形外装薄塗材Ｅ	・砂壁状・ゆず肌状	吹付け
	・平たん状・凹凸状	こて塗り
	・ゆず肌状・さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
・防水形外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状・さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
	・凹凸状	吹付け
・外装薄塗材Ｓ	・砂壁状	吹付け

◎厚付仕上塗材の施工箇所： ・図示 ・

材料の防火指定： ・無 ・有（

種類（呼び名）	仕上げの形状	工 法
・外装厚塗材Ｃ	・吹放し・凸部処理	吹付け
	・平たん状・凹凸状・ひき起し・かき落し	こて塗り
・外装厚塗材Ｓｉ	・吹放し・凸部処理	吹付け
・外装厚塗材Ｅ	・平たん状・凹凸状・ひき起し	こて塗り

◎複層仕上塗材の施工箇所： ⊙図示 ・

材料の防火指定： ・無 ・有（不燃認定品

種類（呼び名）	仕上げの形状	工 法
・複層塗材ＣＥ	⊙凸部処理・凹凸模様	吹付け
・複層塗材Ｓｉ	・ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り
・複層塗材Ｅ		
⊙複層塗材ＲＥ		
・可とう形複層塗材ＣＥ	・凸部処理・凹凸模様	吹付け
	・ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り
		吹付け
		ﾛｰﾗｰ塗り
・防水形複層塗材ＣＥ	・凸部処理・凹凸模様	吹付け
・防水形複層塗材Ｅ	・ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り
・防水形複層塗材ＲＥ		

◎可とう形改修塗材の施工箇所： ・図示 ・

材料の防火指定： ・無 ・有（不燃認定品

種類（呼び名）	仕上げの形状	工 法
・可とう形改修塗材Ｅ	・平たん状	ﾛｰﾗｰ塗り
・可とう形改修塗材ＲＥ	・さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
・可とう形改修塗材ＣＥ	・ゆず肌状	吹付け
・複層塗材ＲＥ		

耐候性： ・耐候形3種 ・

上塗材溶媒： ・溶剤系 ・弱溶剤系 ・水系 ・

上塗材樹脂： ・ｱｸﾘﾙ系 ・ｼﾘｶ系 ・ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系 ・ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ系 ・ふっ素系

上塗材外観： ・つやあり ・つやなし ・ﾒﾀﾘｯｸ ・

防水形の増塗材の適用： ・する ・しない

5.4 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整

施工範囲	工法／種別	備 考
	・ｻﾝﾀﾞｰ工法	
	・高圧水洗工法	
	・塗膜はく離剤工法	
	・水洗い工法	

６．マスチック塗材塗り仕上げ外壁等の改修

6.2 材料及び工法

種別： ・A種 ・B種

章	項目	特記事項

4章 外壁改修工事

7.2 材 料

７．外壁用塗膜防水剤による改修

・外壁用塗膜防水材	・凸部処理・凹凸模様	吹付け
	・ゆず肌状・さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り

耐候性： ・耐候形3種 ・

7.3 施工一般

下地挙動緩衝材の使用： ・使用しない ・使用する（ ）

5章 建具改修工事

⑴.3改修工法

１．共通事項

工法： ・かぶせ工法 ⊙撤去工法 ・

新規建具用開口部の補強方法： ・図示 ・

新規建具用開口部の範囲： ・図示 ・

1.4 防火戸

防火戸の指定： ・図示 ・

・防火戸等の自動閉鎖装置は、日本建築センター評定品とする。

1.5 見本の制作等

建具見本の制作： ・必要 ・不要

仮組の実施 ： ・行う ・行わない

防犯建物部品の適用： ・図示 ・適用 ・適用しない

1.6 取付け調整等

ブラインドボックス等の再利用： ・再利用する ・撤去処分

2.2 性能及び構造

２．アルミニウム製建具

種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法（mm）
・A種	S-4	A-3	W-4	70
・B種	S-5			
・C種	S-6	A-4	W-5	100

防音ドアセット、サッシの適用： ・適用 ・適用しない ・図示

遮音性の等級： ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4

断熱ドアセット、サッシの適用： ・適用 ・適用しない ・図示

断熱性の等級： ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5

2.3 材 料

防虫網の適用： ・適用 ・適用しない ・図示

網の材種： ※合成樹脂製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・ｶﾞﾗｽ繊維入り合成樹脂製

形式 ： ・外面納まり可動式 ・外面納まり固定式

2.4 形状及び仕上げ

建具枠の見込： ・図示 ・70 ・100 ・

外部に面する建具の表面処理： ・AB-1種 ・AB-2種 ・AC-1種 ・AC-2種

・BA-1種 ・BA-2種 ・BB-1種 ・BB-2種

屋内の建具の表面処理 ： ・BC-1種 ・BC-2種 ・C種

表面色： ・標準色 ・特注色

引違い建具落下防止機構： ・採用する ・採用しない

2.5 工 法

結露水の処理方法： ・

水切り板： ・取付ける ・取付けない

ぜん板 ： ・取付ける ・取付けない

３．樹脂製建具

3.2 性能及び構造

種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法（mm）
・A種	S-4	A-4	W-4	70
・B種	S-5		W-5	
・C種	S-6			

防音ドアセット、サッシの適用： ・適用 ・適用しない ・図示

遮音性の種別： ・T-1 ・T-2

断熱ドアセット、サッシの適用： ・適用 ・適用しない ・図示

断熱性の種別： ・H-4 ・H-5 ・H-6 ・H-7 ・H-8

3.3 材 料

ガラスの形式： ・複層ｶﾞﾗｽ ・単層ｶﾞﾗｽ ・三重ｶﾞﾗｽ ・

3.4 形状及び仕上げ

建具の表面色： ・標準色 ・特注色

3.5 工 法

水切り板： ・取付ける ・取付けない

ぜん板 ： ・取付ける ・取付けない

４．鋼製建具

4.2 性能及び構造

性能及び構造： ※JIS規格による ・

外部に面する鋼製建具の耐風圧性能： ・S-4 ・S-5 ・S-6 ・

耐震ドアセットの適用： ・適用 ・適用しない ・図示

面内変形追随性の等級： ・D-1 ・D-2 ・D-3

4.3 材 料

点検口のくつずり： ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・ｽﾁｰﾙ製 ・

4.4 形状及び仕上げ

鋼板類の厚さ： ※表5.4.2による ・図示 ・

鋼板類の厚さ(W>950mm,H>2,100mmの場合)： ・図示 ・

防音ドアセット、サッシの適用： ・適用 ・適用しない ・図示

遮音性の等級： ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4

ガラス溝の大きさ： ※製造所仕様による ・図示

くつずりの仕上げ： ・ｽﾃﾝﾚｽ製【 ・HL ・2B ・ 】 ・枠と同等の塗装 ・亜鉛めっき処理

５．鋼製軽量建具

5.2 性能及び構造

性能及び構造： ※JIS規格による ・

耐震ドアセットの適用： ・適用 ・適用しない ・図示

面内変形追随性の等級： ・D-1 ・D-2 ・D-3

章	項目	特記事項

5章 建具改修工事

5.2 性能及び構造

簡易気密型ドアセットの適用： ・適用 ・適用しない ・図示

気密性： ・A-1 ・A-2 ※A-3

水密性： ・W-1 ・

5.3 材 料

鋼板の種別： ・ﾋﾞﾆﾙ被覆鋼板 ・ｶﾗｰ鋼板 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板 ・図示

召合わせ、縦小口包み板等の材質： ※鋼板 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金押出形材

ステンレス鋼鈑の材質： ※SUS304,430J1L,430 ・SUS304 ・SUS430 ・

６．ステンレス製建具

⑥.3材 料

性能及び構造： ※JIS規格による ・

ステンレス鋼鈑の材質： ※SUS304,430J1L,430 ・SUS304 ・SUS430 ・

⑥.4形状及び仕上げ

表面仕上げ： ※HL ・鏡面 ・ﾊﾞﾌ（ ） ⊙

⑥.5工 法

曲げ加工： ⊙普通曲げ ・角出し曲げ

７．木製建具

7.2 材 料

建具材の加工、組立て時の含水率の種別： ※A種 ・B種

・フラッシュ戸の心材の中骨、上下桟及び中桟には空気穴を適正に設ける。

合板類の適用： ・適用 ・適用しない ・図示

種類： ・ﾗﾜﾝ合板 ・ｼﾅ合板 ・図示 ・

かまち戸の樹種： ・桧 ・ﾅﾗ ・ﾗﾜﾝ

鏡板の樹種： ・杉 ・桧 ・ｹﾔｷ ・ﾅﾗ ・ﾗﾜﾝ

ふすまの上張りの種類： ・本鳥の子 ・新鳥の子 ・ビニル紙 ・

代用樹種等を適用しない箇所： ・

7.3 形状及び仕上げ

フラッシュ戸の表面板の厚さ： ※表5.7.6による ・

かまち戸の見込寸法： ※表5.7.7による ・図示 ・40mm ・

ふすまの見込寸法 ： ※表5.7.7による ・図示 ・21mm ・

戸ぶすまの見込寸法： ※表5.7.7による ・図示 ・33mm ・

紙貼障子の見込寸法： ※表5.7.7による ・図示 ・33mm ・

7.4 工 法

ふすまの工法： ・Ⅰ型 ・Ⅱ型 ・

ふすまの縁の仕上げ： ・図示 ・本漆塗り ・ｶｼｭｰ塗り ・ｳﾚﾀﾝ塗装 ・素木 ・

枠の材料： ・図示

くつずりの材料： ・図示

８．建具用金物

⑧.1一般事項

適用範囲： ・建具製作所仕様以外の金物（

⑧.2材質、形状及び寸法

金物の種類、材質： ※表5.8.1による ・

軸吊りヒンジ： ・自閉装置付き ・自閉装置なし

ドアクローザのディレードアクション（遅延閉）機能の適用： ・適用 ・適用しない

戸当り： ⊙あおり止め(ﾌｯｸ)付き ・あおり止め(ﾌｯｸ)付きなし

鋼板製建具の丁番： ※表5.8.2による ・

樹脂製建具の丁番： ※表5.8.3による ・

⑧.3取付け施工

握玉、レバーハンドル等の取付位置： ・FL+900 ・FL+950 ・FL+1,000 ・

クレセント類の取付位置： ・FL+900～FL+1,500迄 ・

⑧.4錠

マスターキー： ⊙製作する ・製作しない

・ﾏｽﾀｰｷｰの製作については施設管理者及び監督員と協議する。

マスターキーの系統： ・ 系統

指定建物錠の防犯性能の適用： ・する ・しない

指定建物錠とは、建物の外部出入口用に用いるｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・ｼﾘﾝﾀﾞｰ/ｻﾑﾀｰﾝ錠が該当

耐ピッキング性能 ・5分未満 ・5分以上 ※10分以上

耐鍵穴壊し性能 ・5分未満 ・5分以上 ※10分以上

耐サムターン回し性能 ・なし（5分未満） ※あり（5分以上）

耐カム送り解錠性能 ・なし（5分未満） ※あり（5分以上）

耐こじ破り性能 ・なし（5分未満） ※あり（5分以上）

出荷時の子鍵本数： ※3本 ・ 6本 ・

鍵箱の適用： ・必要 ・不必要

９．自動ドア開閉装置

9.2 性能・機構

スライディングドアの開閉方式： ・図示 ・片引き ・引分け

スライディングドアの開閉性能： ※標準仕様書表5.9.1による ・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSLD-1 ・DSLD-2

多機能トイレ出入口引き戸の開閉性能： ※標準仕様書表5.9.2による ・図示

検出装置の性能： ※表5.9.3による ・図示

戸の開閉方法 ： ・図示 ・

センサーの種類： ・図示 ・ﾏｯﾄｽｲｯﾁ ・光線ｽｲｯﾁ ・熱線ｽｲｯﾁ ・音波ｽｲｯﾁ ・光電ｽｲｯﾁ

・ﾀｯﾁｽｲｯﾁ ・押ﾎﾞﾀﾝｽｲｯﾁ

・ﾍﾟﾀﾞﾙｽｲｯﾁ ・多機能便所ｽｲｯﾁ

凍結防止装置： ・有 ・無

令和7年度 入善町公共下水道事業				
工 事 名	吉原第一ポンプ場建築改修工事			
工事箇所	入 善 町 吉 原 地 内			
図 称	建築改修工事特記仕様書 (3)	縮 尺	1/-	
設計年月日	令和 年 月 日	番 号	A-5	
課 長	係 長	合 議	審 査	設計者
入 善 町 役 場				

Copyright (c) 2013 AAT+Library All Rights Reserved

章	項　目	特記事項
5章 建具改修工事		１０．自閉式上吊り引戸装置
	10.3 性能等	自閉式上吊り引き戸装置の性能：　※表5.10.1による　・
		１１．重量シャッター
	11.2形式及び機構	シャッターの種類：　・図示　・管理用ｼｬｯﾀｰ　・外壁用防火ｼｬｯﾀｰ
		・ 屋内用防火ｼｬｯﾀｰ　・防煙ｼｬｯﾀｰ　・
		耐風圧性能：　・50　・80　・120　・
		開閉機能　：　※電動式（手動併用）　・手動式　・
		シャッターケース：　・図示　※設ける　・設けない
		保護装置の設置：　・図示　・
		障害物感知装置の設置：　・図示　・
		危害防止機構の種別：　・自動閉鎖型　・可動座金式　・図示
		管理用シャッターのシャッターケース：　※図示　・設ける　・設けない
		１２．軽量シャッター
	12.2形式及び機構	開閉形式　：　※手動式　・電動式（手動併用）　・
		〈開閉形式〉：　※手動式　・電動式（手動併用）　・
		耐風圧性能：　・50　・80　・120　・
	12.3材　料	スラットの材質：　※塗装溶融亜鉛めっき鋼板　・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板
		※塗装溶融亜鉛-5%ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金めっき鋼板　・ｱﾙﾐ押出型材
		〈パイプの材質〉：　・ｽﾃﾝﾚｽ　・ｽﾁｰﾙ　・
		〈パイプ径〉　：　・図示　・13mm　・16mm　・19mm　・
		〈パイプ間隔〉：　・図示　・70mm　・
		〈格子間隔〉　：　・図示　・500mm　・
	12.4形状及び仕上げ	スラットの形状：　・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ形　・ｵｰﾊﾞｰﾗｯﾋﾟﾝｸﾞ形
		１３．オーバーヘッドドア
	13.2形式及び機構	セクション材料による区別：　・図示　・下表による

ｾｸｼｮﾝ材料による区別	開閉方式による種類	収納形式による区分	ガイドレールの材料
・ｽﾁｰﾙﾀｲﾌﾟ	・ﾊﾞﾗﾝｽ式	・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ形	・鋼製
・ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ	・ﾁｪｰﾝ式	・ﾊｲｱﾘﾌﾄ形　・ﾛｰﾍｯﾄﾞ形	・ｽﾃﾝﾚｽ製
・ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ	・電動式	・ﾊﾞｰﾁｶﾙ形	

	耐風圧性能：　・50　・75　・100　・125
13.3材　料	ガイドレールの材質：　※塗装溶融亜鉛めっき鋼板　・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板
	１４．ガラス
14.2材　料	ガラスの種類：　・図示　・
	ガラス留め材　　金属性製建具用パテはJISA5752による。

建具の種類	種類・材質
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材　※ｶﾞｽｹｯﾄ　・ﾊﾟﾃ材（・1種　・2種）
・鋼　製	※ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・ﾊﾟﾃ材（・1種　・2種）
・ｽﾃﾝﾚｽ製	※ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・ﾊﾟﾃ材（・1種　・2種）
・木　製	※ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・ﾊﾟﾃ材（・木製用　・　）

14.3ｶﾞﾗｽ溝の寸法、形状等	ガラス溝の大きさ：　※製造所仕様による　・図示
14.5ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ積み	表面形状　：　・図示　・ﾌﾟﾚｰﾝ　・梨地　・ｶｽﾐ　・
	寸法、厚み：　・図示　・190x190x95　・145x145x95　・
	壁用金属枠：　・図示　・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製　・ｽﾁｰﾙ製　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・
	補強剤　　：　・図示　・
	化粧目地の色：　・白　・ｸﾞﾚｰ　・黒　・
	シーリング材：　・ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ系　・ｳﾚﾀﾝ系　・ｼﾘｺﾝ系　・
	金属製化粧カバー：　・図示　・
	風圧力に対応した工法：　・
	目地幅：　※標準仕様書による　・
	伸縮調整目地の位置：　※標準仕様書による　・
	伸縮調整目地の仕上：　※標準仕様書による　・

章	項　目	特記事項
6章 内装改修工事		１．共通事項
	1.3 他の部位との取合い等	既存間仕切り壁撤去に伴う天井、壁及び床の改修範囲：　※壁厚程度　・図示
		天井内の既存壁の撤去に伴う取り合い天井改修範囲：　※両側600mm程度　・図示
		天井の撤去に伴う取り合い壁の改修範囲：　※既存のまま　・図示
		既存部分の撤去工法：
		・適用する【・標準仕様書6.2　・標準仕様書6.3　・標準仕様書6.4】　・図示
		新設下地の工法：
		・適用する【・標準仕様書6.5　・標準仕様書6.6　・標準仕様書6.7】　・図示
		仕上げの工法：　※該当項の有無により適用する　・図示
		２．既存床の撤去並びに下地補修
	2.2 工　法	合成樹脂塗り床材の除去：　・機械的除去工法　・目荒工法　・
		改装後の床の清掃範囲：　・影響範囲全て　・図示

章	項　目	特記事項
6章 内装改修工事		３．既存壁の撤去並びに下地補修
	3.2 工　法	コンクリート間仕切壁等の撤去に伴う構造体の補修：　※行う　・既存のまま
		・モルタル塗り（改修標準仕様書4.4.9による）　・図示　・
		５．木下地等
	5.2 木　材	◎一般事項
		木材の含水率：　※A種　・B種
		材料のホルムアルデヒド放散料：　※Ｆ☆☆☆☆　・図示
		◎製材

◇ＪＡＳによる下地用製材：　・下表による（寸法は図示）　・図示　・

使用部位	樹種	区分等級	含水率	仕上げ	防腐防蟻処理	備　考
全般	桧	・1級	SD15	ｻﾝﾀﾞｰ	・有　・無	
	杉	※2級	SD20	ｻﾝﾀﾞｰ	・有　・無	
			D15	ﾌﾟﾚｰﾅｰ	・有　・無	
			D20	ﾌﾟﾚｰﾅｰ	・有　・無	

◇ＪＡＳによる造作用製材：　・下表による（寸法は図示）　・図示　・

使用部位	樹種	化粧等級	含水率	仕上げ	防腐防蟻処理	備　考
窓枠	ﾅﾗ	無節	SD15	ｻﾝﾀﾞｰ	・有　・無	
床仕上げ板	杉	※上小節	SD18	ｻﾝﾀﾞｰ	・有　・無	
ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ	桧	※小節	D15	ﾌﾟﾚｰﾅｰ	・有　・無	
段板		並	D18	ﾌﾟﾚｰﾅｰ	・有　・無	
巾木						

◇ＪＡＳによる広葉樹製材：　・下表による（寸法は図示）　・図示　・

使用部位	樹種	区分等級	含水率	仕上げ	防腐防蟻処理	備　考
全般	ｹﾔｷ	特等	D10	ｻﾝﾀﾞｰ	・有　・無	
	ﾅﾗ	※1等	D13	ｻﾝﾀﾞｰ	・有　・無	
	ｻｸﾗ	2等		ﾌﾟﾚｰﾅｰ	・有　・無	防腐処理：K1

◇ＪＡＳ以外の製材：　・下表による（寸法は図示）　・図示　・

使用部位	樹種	材面の品質	含水率	寸法	防腐防蟻処理	備　考
	桧	※A種	15%	図示		
	杉	B種	18%	図示		
	松		20%			

代用樹種を使用する場合は、協議のうえ決定する。
代用樹種を適用しない箇所：　・図示　・
◎造作用集成材
接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量：　※F☆☆☆☆　・F☆☆☆　・

◇ＪＡＳによる造作用集成材：　・下表による（寸法は図示）　・図示　・

使用部位	仕上げ	樹種	見付材 面	見付材 品質	区分等級	備　考
	仕上有		1面	※1等	1等	
	未仕上		4面	2等	2等	
	塗装					

◇ＪＡＳによる化粧ばり造作用集成材：　・下表による（寸法は図示）　・図示　・

使用部位	仕上げ	樹種 心材	樹種 化粧材/厚さ	見付材 面	見付材 品質	区分等級	備　考
	仕上有			1面	※1等	1等	
	未仕上			4面	2等	2等	
	塗装						

◇ＪＡＳ以外の造作用集成材：　・下表による（寸法は図示）　・図示　・

使用部位	仕上げ	樹種	見付材 面	見付材 品質	区分等級	備　考
	仕上有		1面	※1等	1等	※15%
	未仕上		4面	2等	2等	
	塗装					

◇ＪＡＳ以外の化粧ばり造作用集成材：　・下表による（寸法は図示）　・図示　・

使用部位	仕上げ	樹種 心材	樹種 化粧材/厚さ	見付材 面	見付材 品質	区分等級	備　考
	仕上有			1面	※1等	1等	※15%
	未仕上			4面	2等	2等	
	塗装						

◎造作用単板積層材
接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量：　※F☆☆☆☆　・F☆☆☆　・

◇ＪＡＳによる造作用単板積層材：　・下表による（寸法は図示）　・図示　・

使用部位	仕上げ	表面の品質	防腐防蟻処理	含水率	備　考
	仕上有	1等	・有　・無	※14%	天然木化粧加工
	仕上有	2等	・有　・無		塗装加工
	未仕上	3等	・有　・無		

章	項　目	特記事項
6章 内装改修工事		◇ＪＡＳ以外の造作用単板積層材：　・下表による（寸法は図示）　・図示　・

使用部位	仕上げ	表面の品質	防腐防蟻処理	含水率	備　考
	仕上有	1等	・有　・無	※14%	天然木化粧加工
	仕上有	2等	・有　・無		塗装加工
	未仕上	3等	・有　・無		

◎直交集成板

◇ＪＡＳによる直交集成板

使用部位	曲げ強度	種別	接着性能	樹種区分	備　考
	Mx120-3-3	A種構成	使用環境A	S1	
	Mx 60-9-9	B種構成	使用環境B	S2	
	S120-3-3		使用環境C	S3	
	S 30-9-9			S4	

◎床張り用合板等

◇ＪＡＳによる普通合板

使用部位	表板樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	板面の品質	等級・処理・寸法等
	ﾗﾜﾝ	※5.5	※1類	※2等	・図示
	ｼﾅ	9	2類	1等	
		12		※C-D	

◇ＪＡＳによる構造用合板

使用部位	表板樹種名	等級	接着の程度	板面の品質	備　考
外壁・内壁耐力壁	針葉樹	1級	特類	A-B	F☆☆☆☆/防虫処理材
各室床下地捨て張り	ｼﾅ	2級	1類	B-C	
	ﾅﾗ			D-D	

◇ＪＡＳによる化粧ばり構造用合板

使用部位	品　名	厚さ(mm)	表板樹種名	接着の程度	備　考
		9		特類	F☆☆☆☆/防虫処理材
		12		1類	F☆☆☆☆/防虫未処理

◇ＪＡＳによる天然木化粧合板

使用部位	品　名	厚さ(mm)	単板樹種名	接着の程度	備　考
		12		1類	F☆☆☆☆/防虫処理材
		15		2類	F☆☆☆☆/防虫未処理

◇ＪＡＳによる特殊加工化粧合板

使用部位	品　名	厚さ(mm)	表面性能ﾀｲﾌﾟ	接着の程度	備　考
		12	・F ・FW	1類	ｵｰﾊﾞｰﾚｲ/防虫処理材
		15	・W ・SW	2類	ﾌﾟﾘﾝﾄ/防虫未処理

◇パーティクルボード

使用部位	厚さ(mm)	曲げの区分	接着の区分	難燃性区分	備　考
	※15			※13P/M	

◇ＪＡＳによる構造用パネル

使用部位	品　名	厚さ(mm)	曲げ等級	備　考
		図示	・1級 ・2級	ｵｰﾊﾞｰﾚｲ/防虫処理材
		25	・3級 ・4級	・ﾌﾟﾘﾝﾄ ・塗装/防虫未処理

◇ミディアムデンシティーファイバーボード(ＭＤＦ)

使用部位	厚さ(mm)	表面状態区分	曲げの区分	接着の区分	難燃性区分	備　考
		・RN ・RS	・30 ・25	U	難燃2	
		・DV ・DO ・DC	・15 ・5	M	難燃3	
				P		

5.3 接合具等	造作材化粧面の釘打ち工法：　※隠し釘打ち　・釘頭埋め木　・つぶし頭釘打ち　・釘頭現し
	接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量：　※F☆☆☆☆　・F☆☆☆　・
5.4 木れんが	接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量：　※F☆☆☆☆　・F☆☆☆　・
5.5 防腐･防蟻・防虫処理	◎薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

処理木材（部位）	性能区分	備　考
製材	・K2　・K3　・K4	
合板	・K2　・K3　・K4	
集成材		

加圧注入用木材のｲﾝｻｲｼﾞﾝｸﾞ：　・適用する　・摘要しない

令和7年度 入善町公共下水道事業				
工 事 名	吉原第一ポンプ場建築改修工事			
工事箇所	入　善　町　吉　原　地　内			
図　　称	建築改修工事特記仕様書 (4)	縮　尺	1/-	
設計年月日	令和　年　月　日	番　号	A-6	
課　長	係　長	合　議	審　査	設計者
入　善　町　役　場				

Copyright (c) 2013 AAT+Library All Rights Reserved

章	項　目	特記事項
6章 内装改修工事		薬剤の塗布による防腐・防蟻処理の方法：　※標準仕様書による　・
		ﾎﾞｰﾄﾞ原料接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理の方法：　・
		◎防虫処理
		木材の防虫処理：　・
	5.6~5.9 ***木材、工法	樹種：　※下表を標準とし変更する場合は、事前に監督員の承諾を得る事。

使用箇所		材　種
・ＲＣ造等の内部間仕切軸組及び床組	・間仕切軸組	※杉　・
	・床組	※杉又は松　・
・窓、出入口、その他	・吊元枠、水掛かりの下枠及び敷居	・桧　・
・床板張り	・縁甲板、上がり框	・桧　・
・壁及び天井下地		※杉又は松　・

章	項　目	特記事項
	5.＊壁　木	樹種：　・ﾅﾗ　・ｹﾔｷ　・ｻｸﾗ　・ｸﾘ　・ｼｵｼﾞ　・
		使用箇所：　・
	5.＊敷　木	種別：　・真物　・貼物
		樹種：　・
		使用箇所：　・
		６．軽量鉄骨天井下地
	6.2 材　料	種類：　※表6.6.1による　・
	6.3 形式及び寸法	屋外の野縁受け、吊りボルト、インサートの間隔：　・≒@900mm　・
		屋外の野縁の間隔：　※表6.6.2による　・
	6.4 工　法	既存埋込インサートの使用：　・使用する　・使用しない
		あと施工アンカーの引抜き試験：　・行わない　・行う
		試験法：　・標準仕様書による　・図示　・
		吊ボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法：　・図示　・
		天井ふところが3mを超える場合の補強方法：　・図示　・
		屋外の軒天井、ピロティー天井の補強：
		・図示　・吊りボルトは配管類及びダクト等とは絶縁して取り付ける。
		・天井内配管類及びダクト等により、野縁受けを吊れない場合には、野縁受けの断面を大きくするか又は補強用チャンネル、アングル等を用いて十分補強を行う。
		７．軽量鉄骨壁下地
	7.3 形式及び寸法	種類：　・50形　・65形　・90形　・100形　・
		スタッドの高さが5mを超える場合：　・図示　・
	7.4 工　法	開口部の補強：　※標準仕様書6.7.4による　・図示　・
		８．ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り
	8.2 材　料	ビニル床シートの材料：　・図示　・下表による　・

種　類	記号	色柄	厚さ(mm)
・発泡砲層のないﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ	※FS　・NS	※無地　・ﾏｰﾌﾞﾙ	※2.0　・2.5
・発泡層のあるﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ(ｸｯｼｮﾝﾌﾛｱ)	・DO		※2.3　・3.5

ビニル床タイル、ゴム床タイルの材料：　・図示　・下表による　・

種　類		厚さ(mm)
・ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	半硬質(CT)	※2.0　・
・ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	軟質(CTS)	※2.0　・
・ﾎﾓｼﾞﾆｱｽﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ(HT)		※2.0　・
・ｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ	・無地　・ﾏｰﾌﾞﾙ	・4.0　・

章	項　目	特記事項
		接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量：　※F☆☆☆☆　・F☆☆☆　・
		◎帯電防止床シート張り
		種類：　・
		性能：　・体積抵抗値(1.0x10^{6}Ω)　・
		厚さ：　・2.0mm　・4.0mm　・4.5mm　・
		◎帯電防止床タイル張り
		種類：　・
		性能：　・体積抵抗値(1.0x10^{6}Ω)　・
		寸法厚さ：　・300x300x2.0mm　・500x500x3.0mm　・図示
		◎視覚障害者用床タイル張り
		種類：　・合成ｺﾞﾑ貼付用　・合成ｺﾞﾑ埋込用　・合成ｺﾞﾑ裏面CON　・せっ器質ﾀｲﾙ　・ｺﾝｸﾘｰﾄ
		厚さ：　・2mm　・15mm　・20mm　・30mm　・
		◎耐動荷重性床シート張り
		種類：　・
		厚さ：　・　mm　・
		◎防滑性床シート張り
		種類：　・
		厚さ：　・　mm　・
		◎防滑性床タイル張り
		種類：　・
		寸法厚さ：　・300x300x2.0mm　・500x500x3.0mm　・図示
	8.2 材　料	ビニル幅木の厚み：　※1.5mm以上　・
		ビニル幅木の高さ：　※60mm　・100mm　・300mm　・
	8.3 工　法	下地の工法：　※標準仕様書6.8.3(1)による　・図示
		目地処理場合の工法：　※熱溶接工法　・図示　・
		９．カーペット敷き
	9.2 材　料	◎織じゅうたん
		種別：　・A種　・B種　・C種
		パイル形状：　・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ　・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ　・ｶｯﾄ/ﾙｰﾌﾟ併用
		色柄：　※無地　・柄物
		帯電性の適用：　・適用しない　・適用する（人体帯電圧：　※3kV以下　・　）
		◎タフテッドカーペット
		パイル形状：　・ﾙｰﾌﾟ　・ｶｯﾄ　・
		パイル長：　・図示　・　mm
		◎タイルカーペット

パイル形状	種　類	寸法(mm)	総厚さ(mm)
・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	※第１種　・第２種	※500x500　・	※6.5　・
・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ			
・ｶｯﾄ/ﾙｰﾌﾟ併用			

章	項　目	特記事項
		◎下敷き材
		下敷き材：　※反毛フェルト第2種2号(呼厚8mm)　・
	9.3 工　法	タフテッドカーペットの工法：　・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法　・全面接着工法　・
		織じゅうたんの接合方法：　※ﾋｰﾄﾎﾞﾝﾄﾞ工法　・手縫い(づづり縫い)
		タイルカーペットの敷き方（平場）：　※市松敷き　・
		（階段部分）：　※模様流し　・
		１０．合成樹脂塗床

種　類	仕上げ種類	備　考
・弾性ｳﾚﾀﾝ塗り床材	※平滑　・防滑　・つや消し	F☆☆☆☆
・ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗り床材	・薄膜流し展べ	F☆☆☆☆
	・厚膜流し展べ：　※平滑　・防滑	
	・樹脂ﾓﾙﾀﾙ：　・平滑　・防滑	

章	項　目	特記事項
	10.2 材　料	
	10.3 工　法	
		１１．フローリング張り
	11.2 材　料	フローリング：　※F☆☆☆☆　・図示
		接着剤：　※F☆☆☆☆　・図示
	11.3~11.5 ***工法	

種　類	材　種	工　法	形式寸法等(mm)LxWx t
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ1等	・ﾅﾗ　・	・釘留め工法(根太張)	・500(L)x75(W)x15(t)以上
		・釘留め工法(直張り)	
		・接着工法	
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ1等	・ﾅﾗ　・ｻｸﾗ　・	・釘留め工法(根太張)	・303x303(L)x15(t)以上
		・釘留め工法(直張り)	
・複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	・ﾅﾗ　・ｻｸﾗ　・	・釘留め工法(根太張)	・A種　・B種　・C種
		・釘留め工法(直張り)	・A種　・B種　・C種
		・接着工法	・A種　・B種　・C種

章	項　目	特記事項
	11.6 現場塗装仕上げ	仕上げ：　・ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り　・ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り　・既製仕上げ
		１２．畳敷き
	12.2 材　料	種別：　・A種　・B種　・C種　・D種（・KT-Ⅰ　・KT-Ⅱ　・KT-Ⅲ　・KT-K　・KT-N)
		衝撃緩和型畳の適用：　・適用する【畳表：　・C1　・C2　】　・適用しない
		１３．せっこうボード、その他ボード及び合板張り

規格名称	種　類	記号	厚さ(mm)
木質系ｾﾒﾝﾄ板	・木毛ｾﾒﾝﾄ板	・HW　・NW	・25・50
	・木片ｾﾒﾝﾄ板	・HF　・NF	・18　・
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ製品	※図示　・	※図示　・	※図示　・
繊維強化ｾﾒﾝﾄ板	・ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板(ﾀｲﾌﾟ2)	・0.8FK	※図示　・
		・1.0FK	※図示　・
ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ繊維板	・	・RS・VS	※図示　・
		・DV・DO・DC	※図示　・
火山性ｶﾞﾗｽ質複層板(VSﾎﾞｰﾄﾞ)	・	・	※図示　・

◎合板

章	項　目	特記事項
	13.2 材　料	
	13.3 工　法	

材　種	樹種、防虫・難燃・防煙処理等		厚さ(mm)	工法
・難燃合板	生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ・ﾗﾜﾝ　・ 不透明塗料塗りの場合 ・ｼﾅ(・1級・2級)　・		・4　・5.5 ・6　・	・A種 ※B種
・普通合板	・ﾗﾜﾝ　・ ・ｼﾅ	・1類 ・2類	・4　・5.5 ・6　・	・A種 ※B種
・捨張り用合板	・南洋材　・ ・針葉樹	・型枠用 ・構造用	・9　・12 ・	・A種 ※B種
・有孔合板	・ｼﾅ	・1類 ・2類	・4　・6 ・	・A種 ※B種

章	項　目	特記事項

材　種	樹種、防虫・難燃・防煙処理等	厚さ(mm)	工法
・天然木化粧合板	化粧単板のそば包み	・4.2　・	・A種
	・行う　※行わない 化粧単板の厚さ ※0.3未満　・		※B種
・特殊加工化粧合板	表面仕上げの種類 ・ﾒﾗﾐﾝ　・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ　・	・4.0　・3.0	・A種 ※B種

章	項　目	特記事項
		普通合板の防虫処理：　※行わない　・行う
		天然木化粧合板の防虫処理：　※行わない　・行う
		特殊加工化粧合板の防虫処理：　※行わない　・行う
		せっこうボードの目地処理：　・継目処理工法　・目透し工法【　・ﾍﾞﾍﾞﾙｴｯｼﾞ　・ｽｸｴｱｴｯｼﾞ　】
		突付け工法【　・ﾍﾞﾍﾞﾙｴｯｼﾞ　・ｽｸｴｱｴｯｼﾞ　】
		遮音シール材：　・ｱｸﾘﾙ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・ｼﾞｮｲﾝﾄｾﾒﾝﾄ
		１４．壁紙張り
	14.2 材　料	防火性能の指定：　・下表による　・図示　・

品　質	検定区分	施工箇所
・ｵﾚﾌｨﾝ系	・1級　・2級　・	
・織物系	・1級　・3級　・4級　・	
・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系	・1級　・2級　・	

章	項　目	特記事項
	14.3 施　工	モルタル面及びプラスター面の下地調整：　・RA種　※RB種　・RC種
		コンクリート面の下地調整：　・RA種　※RB種　・RC種
		せっこうボード及びその他ボード面の下地調整：　・RA種　※RB種　・RC種
		１５．モルタル塗り
	15.3 材　料	モルタル：　・現場調合材料　・既調合材料
		既製目地：　・適用　・不適用
		既製目地の形状寸法等：　・図示　・
	15.6 工　法	床の目地：　・設ける　・設けない
		工法：　※押し目地　・切り目地　・
		１６．タイル張り
	16.1 一般事項	伸縮調整目地の位置：　※@4m(縦･横共)　・図示　・
		タイルの見本焼き：　・行う　・行わない
		タイルの試験張り：　・行う　・行わない
	16.3 ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙによるﾀｲﾙ張り	タイルの種類：　・図示　・下表による　・

施工箇所	形式・形状寸法(mm)	用途による区分	耐凍害性 有	耐凍害性 無	色 標準	色 特注	釉薬 施釉	釉薬 無釉	備　考
			・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	

章	項　目	特記事項
		◎タイルの役物
		使用箇所：　・出隅　・入隅　・幅木　・まぐさ　・窓台
		製造方法：　・接着成型品　・一体成型品
		壁タイル張り工法：　・改良積上張り　・
		張付けモルタル：　・現場調合材料　・既調合材料
	16.4 有機系接着剤によるﾀｲﾙ張	タイルの種類：　・図示　・下表による　・

施工箇所	形式・形状寸法(mm)	用途による区分	耐凍害性 有	耐凍害性 無	色 標準	色 特注	釉薬 施釉	釉薬 無釉	備　考
			・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	

章	項　目	特記事項
		◎タイルの役物
		使用箇所：　・出隅　・入隅　・幅木　・まぐさ　・窓台
		製造方法：　・接着成型品　・一体成型品
		タイルの見本焼き：　・行う　・行わない
		タイルの試験張り：　・行う　・行わない
		壁タイル張り工法：　・改良積上張り　・
		１７．セルフレベリング材塗り
	17.2 材　料	品質：　・ｾﾒﾝﾄ系　・せっこう系　・
		厚さ：　・10mm　・図示

令和7年度 入善町公共下水道事業				
工 事 名	吉原第一ポンプ場建築改修工事			
工事箇所	入　善　町　吉　原　地　内			
図　　称	建築改修工事特記仕様書 (5)	縮　尺	1/-	
設計年月日	令和　年　月　日	番　号	A-7	
課　長	係　長	合　議	審　査	設計者
入　善　町　役　場				

Copyright (c) 2013 AATelibrary All Rights Reserved

章	項 目	特記事項
7章 塗装改修工事	1.3 材 料	１．共通事項 塗料の防火材料の指定： ・図示 ・無 ・有（
	2.2~2.7 ***下地調整	２．下地調整

塗装面の種類	種 別
木部（不透明塗料塗り部）	※RA種 ・RB種 ・RC種
木部（透明系塗料塗り部）	・RA種 ※RB種 ・RC種
鉄鋼面	・RA種 ※RB種 ・RC種
亜鉛めっき鋼面	・RA種 ※RB種 ・RC種
モルタル、プラスター面	・RA種 ※RB種 ・RC種
コンクリート、ＡＬＣパネル面	・RA種 ※RB種 ・RC種
押出成形セメント板	・RA種 ・RB種 ・RC種
せっこうその他のボード	継目処理工法の場合： ・RA種 ※RB種 ・RC種 その他の場合： ・RA種 ※RB種 ・RC種

	３．素地ごしらえ
3.1~3.7 ***素地ごしらえ	塗装面の種類 ／ 種 別

塗装面の種類	種 別
木部（不透明塗料塗り部）	※A種 ・B種
木部（透明系塗料塗り部）	・A種 ※B種
鉄鋼面	・A種 ※B種 ※C種
亜鉛めっき鋼面	・A種 ・B種
モルタル、プラスター面	・A種 ※B種
コンクリート、ＡＬＣパネル面	・A種 ※B種
押出成形セメント板	・A種 ※B種
せっこうその他のﾎﾞｰﾄﾞ	継目処理工法の場合： ※A種 ・B種 その他の場合： ・A種 ※B種

	４．錆止め塗料塗り
4.2 塗料種別	鉄鋼面(上塗りEP-Gの場合)： ・A種 ※B種
	亜鉛めっき鋼面(上塗りSOPの場合)： ※A種 ・B種
4.3 錆止め塗料塗り	鉄鋼面見え掛り部分(新規塗装;上塗りSOP、及びEP-Gの場合)： ※A種 ・B種 ・C種
	鉄鋼面見え隠れ部分(新規塗装;上塗りSOP、及びEP-Gの場合)： ・A種 ※B種 ・C種
	鉄鋼面見え掛り部分(塗替え;上塗りSOP、及びEP-Gの場合)： ・A種 ・B種 ※C種
	鉄鋼面見え隠れ部分(塗替え;上塗りSOP、及びEP-Gの場合)： ・A種 ・B種 ※C種
	鉄鋼面(DPの場合)： ※A種 ・B種 ・C種
	５．合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ）
5.2 塗料の種別	種別： ※1種 ・2種
5.3~5.5 ***塗料塗り	木部の種別（新規外部）： ※A種 ・B種
	木部の種別（新規内部）： ・A種 ※B種
	木部の種別（多孔質広葉樹）： ・A種 ・B種
	木部の種別（塗替え）： ・A種 ※B種
	鉄鋼面の種別： ・A種 ※B種
	亜鉛めっき鋼面の種別（塗替え）： ※A種 ・B種
	亜鉛めっき鋼面の種別（新規）： ・A種 ※B種
	６．クリヤーラッカー塗り（ＣＬ）
6.2 ***塗料塗り	種別： ・A種 ※B種
	７．アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ）
7.2 ***塗料塗り	種別： ・A種 ※B種
	８．耐候性塗料塗り（ＤＰ）
8.2~8.4 ***塗料塗り	鉄鋼面の上塗り塗料の等級： ・1級 ・2級 ・3級
	亜鉛めっき鋼面の上塗り塗料の等級： ・1級 ・2級 ・3級
	コンクリート面の種別： ・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種
	押出成形セメント板面の種別： ・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種
	９．つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）
9.2~9.5 ***塗料塗り	コンクリート面及びモルタル面の種別： ・A種 ※B種 ・C種
	プラスター面の種別： ・A種 ※B種 ・C種
	せっこうボード、及びその他のボード面の種別： ・A種 ※B種 ・C種
	塗替えの場合のしみ止め： ・標準仕様書7.9.2(b)による ・図示 ・
	屋内木部の種別（新規）： ※A種 ・B種 ・C種
	屋内木部の種別（多孔質広葉樹）： ・A種 ・B種 ・C種
	屋内木部の種別（塗替え）： ・A種 ※B種 ・C種
	屋内鉄鋼面の種別： ・A種 ※B種 ・C種
	屋内亜鉛めっき鋼面の種別： ・A種 ※B種 ・C種
	１０．合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）
10.2 ***塗料塗り	種別： ・A種 ※B種 ・C種
	塗替えの場合のしみ止め： ・標準仕様書7.13.2(b)による ・図示 ・

章	項 目	特記事項
7章 塗装改修工事	11.2 ***塗料塗り	１１．ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ） 種別： ・A種 ※B種
	12.2 ***塗料塗り	１２．ステイン塗り 塗料の種別： ・図示 ・
	13.2 ***塗料塗り	１３．木材保護塗料塗り（ＷＰ） 種別： ・A種 ※B種
8章 耐震改修工事		１．共通事項
	1.* コンクリート工事	・本章の事項は構造特記仕様書による
	1.* 鉄骨工事	・本章の事項は構造特記仕様書による
	1.* 鉄筋工事	・本章の事項は構造特記仕様書による
	1.3 ｺﾝｸﾘｰﾄの種類	コンクリートの種別： ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 ・その他；
		使用骨材による種類： ・普通コンクリート（下表による） ・図示 ・構造特記仕様書による

施工部位	設計基準強度(N/mm2)	備 考
・構造躯体（基礎～ 階）	30	
・構造躯体（ 階～ 階）	24	
・構造躯体（ 階～ 階）	21	
・捨てコンクリート	・18 ・21	

使用骨材による種類： ・軽量コンクリート（下表による） ・図示 ・構造特記仕様書による

施工部位	設計基準強度(N/mm2)	備 考
	・18 ・21	
	・18 ・21	

1.4 ｺﾝｸﾘｰﾄの品質	スランプ： ※18cm ・図示 ・
	コンクリート部材の許容差及び測定方法： ・標準仕様書8.1.4(d)(1)による ・
	打放し仕上げの種別（合板せき板を用いる場合）

施工部位	種別	備 考
・化粧打放し部	A種	
・打放し補修下地部	B種	
・基礎部	C種	

	コンクリートの仕上りの平坦さ： ・a種 ・b種 ・c種
1.5 鉄骨製作工場	製作工場のグレードは下記同等以上で大臣認定された工場とする：
	・Sｸﾞﾚｰﾄﾞ ・Hｸﾞﾚｰﾄﾞ ・Mｸﾞﾚｰﾄﾞ ・Rｸﾞﾚｰﾄﾞ ・Jｸﾞﾚｰﾄﾞ
	施工管理技術者の配置： ・する ・しない
	２．材 料
2.1 鉄 筋	鉄筋の種類： ・SR295 ・SD295A ・SD295B ・SD345 ・SD390 ・図示 ・
2.2 溶接金網	溶接金網の寸法、径： ・φ6x150x150 ・φ6x100x100 ・φ4.5x50x50 ・図示 ・
2.4 あと施工アンカー	あと施工アンカーの種類： ・金属系ｱﾝｶｰ ・接着系ｱﾝｶｰ ・図示 ・
	◎金属系アンカー
	引張耐力： ・図示 ・
	せん断耐力： ・図示 ・
	アンカー本体の径： ・図示 ・
	アンカー本体の埋込深さ： ・図示 ・
	アンカー本体のセット方式： ・図示 ※本体打込み式改良型 ・
	接合筋の径及び長さ： ・図示 ・
	◎接着系アンカー
	引張耐力： ・図示 ・
	せん断耐力： ・図示 ・
	アンカーの種類： ・図示 ・ｶﾌﾟｾﾙ型 ・
	アンカー筋の径： ・図示 ・
	アンカー筋の埋込深さ： ・図示 ・
	アンカー筋の種類： ・図示 ※異形棒鋼 ・
	アンカー筋の新設壁内への定着長さ： ・図示 ・
	あと施工アンカーの性能確認試験： ・行う ・行わない ・
2.5 ｺﾝｸﾘｰﾄの材料及び調合	セメントの種類： ※普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ※混合ｾﾒﾝﾄA種 ・高炉ｾﾒﾝﾄ ・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄ
	フェロニッケルスラグ細骨材の使用： ・使用する ・使用しない
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分： ※A ・B
	鋼スラグ細骨材の使用： ・使用する ・使用しない
	電気炉酸化スラグ細骨材の使用： ・使用する ・使用しない
	混和剤： ・AE剤 ・AE減水剤 ・高性能AE減水剤 ・
	混和材： ・ﾌﾗｲｱｯｼｭ ・高炉ｽﾗｸﾞ微粉末 ・膨張剤 ・
2.6 構造体用モルタルの	モルタルの圧縮強度： ・図示 ・18N/mm2 ・
材料及び調合	モルタルのフロー値： ・図示 ・180mm未満 ・180mm以上240mm未満 ・240mm以上
2.7 型枠の材料	型枠の材料等： ・下表による ・図示 ・

種類	種別・厚さ	材質
・合板	※「ｺﾝｸﾘｰﾄ型枠用合板のJAS」・12mm	※複 合
	・「ｺﾝｸﾘｰﾄ型枠用合板のJAS」・15mm	※南洋材
・床型枠用鋼製ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ		・針葉材

スリーブ： ・硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管 ・溶融亜鉛めっき鋼管・鋼管 ・つば付き鋼管 ・鋼管 ・紙ﾁｭｰﾌﾞ

章	項 目	特記事項
8章 耐震改修工事	2.8 鋼 材	鋼材の材質： ・下表による ・図示 ・構造特記仕様書による ・

施工部位	材質（種類の記号）	備 考
・構造躯体	・SS400 ・SSC400	
・構造躯体（ 階～ 階）	・SM490A	
・構造躯体（ 階～ 階）	・STKR400	
	・BCR295	
	・SN400C ・SN400A	

	鋼材の形状及び寸法： ・図示 ・
2.9 高力ボルト	種類： ・ﾄﾙｼｱ型高力ﾎﾞﾙﾄ2種(S10T) ・JISの高力ﾎﾞﾙﾄ2種(F10T) ・溶融亜鉛めっき高力ﾎﾞﾙﾄ1種(F8T相当)
	高力ボルトの径： ・図示 ・
2.10 溶接材料	表8.2.9以外の溶接材料： ・図示 ・
2.11 ｽﾀｯﾄﾞ	スタッドの規格、形状、寸法等： ・下表による ・図示 ・

施工部位	規格番号	形状、寸法	備 考
・2階床より上部各階床ｽﾗﾌﾞ	JIS B 1198		・形状、寸法は図示
・屋根ｽﾗﾌﾞ			

2.12 柱底均しﾓﾙﾀﾙ及びｸﾞﾗｳﾄ材	柱底均しモルタル： ※無収縮モルタル ・図示 ・
2.13 連続繊維ｼｰﾄ及び	材料： ・図示 ・
含浸接着樹脂等	工法： ・図示 ・
	引張強度、ヤング係数等： ・図示 ・
2.14 鋼材の材料試験等	引張りを受ける鋼板の試験： ・適用する ・適用しない ・図示 ・
	杭の材料： ・構造特記仕様書による ・図示 ・
2.15 基礎工事に用いる材料	杭の継手、工法等： ・構造特記仕様書による ・図示 ・
	３．鉄筋の加工及び組立
3.4 継手及び定着	継手の種類： ・重ね継手 ・ｶﾞｽ圧接継手 ・機械継手 ・図示 ・
	継手の位置： ・図示 ・
	主筋の重ね継手長さ： ※標準仕様書8.3.4による ・図示 ・
	耐力壁鉄筋の重ね継手長さ： ※標準仕様書8.3.4による ・図示 ・
	先組み工法等の継手の位置： ・図示 ・
	柱への梁引っ張り鉄筋の定着長さ： ※表8.3.4による ・図示 ・
	折曲げ定着の方法： ※図8.3.3による ・図示 ・
	機械式定着工法の適用箇所、種類： ・図示 ・
3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	鉄筋等のかぶり厚さ： ※表8.3.6による ・図示
	土に接する柱、梁、スラブ及び壁の鉄筋のかぶり厚さ（軽量コンクリートの場合）：
	・図示 ・40mm ・50mm ・60mm ・
	塩害を受ける恐れのある部分等の鉄筋のかぶり厚さ： ・図示 ・
3.7 壁の配筋及び補強	壁の配筋： ・図示 ・
	開口部の補強筋： ・図示 ・
3.8 ガス圧接	抜取試験の方法： ※超音波探傷試験 ・引張試験 ・
	４．鉄筋の機械式継手及び溶接継手
4.2 機械式継手	適用箇所： ・図示 ・
	性能・種類等： ・図示 ・
	鉄筋相互のあき： ・図示 ・
	施工完了後の継手部の試験は（公社）日本鉄筋継手協会発行の鉄筋継手工事標準仕様書等に基づき検査を行う。
	抜取り１ロットは同一作業班の１日当たりの継手作業箇所とする。（概ね200箇所程度）
	外観検査方法： ・目視及び計測 ・図示 ・
	超音波探傷検査の対象： ・抜取り１ロット当り10箇所 ・抜き取り１ロット当り5%程度 ・
	超音波探傷検査で不合格となった場合の措置： ・全数検査を行い是正する ・図示 ・
4.3 溶接継手	適用箇所： ・図示 ・
	性能・工法等： ・図示 ・
	鉄筋相互のあき： ・図示 ・
	施工完了後の継手部の試験は（公社）日本鉄筋継手協会発行の鉄筋継手工事標準仕様書等に基づき検査を行う。
	抜取り１ロットは同一作業班の１日当たりの継手作業箇所とする。（概ね200箇所程度）
	外観検査方法： ・目視及び計測 ・図示 ・
	超音波探傷検査の対象： ・抜取り１ロット当り30箇所 ・抜き取り１ロット当り15%程度 ・
	超音波探傷検査で不合格となった場合の措置： ・全数検査を行い是正する ・図示 ・
	７．コンクリートの工事現場内運搬、打込み及び締固め
7.8 型枠工事	外部に面する打放し仕上げの増打厚さ： ・25mm ・20mm ・15mm ・
	型枠セパレーターとしてのシアコネクタの使用： ・適用する ・適用しない

令和7年度 入善町公共下水道事業				
工 事 名	吉原第一ポンプ場建築改修工事			
工事箇所	入 善 町 吉 原 地 内			
図 称	建築改修工事特記仕様書 (6)		縮 尺	1/-
設計年月日	令和 年 月 日		番 号	A-8
課 長	係 長	合 議	審 査	設計者
入 善 町 役 場				

Copyright (c) 2013 AAT+Library ALL Rights Reserved

章	項　目	特記事項
8章 耐震改修工事		９．軽量コンクリート
	9.1 一般事項	土に接する軽量コンクリートの使用：　・使用する【使用箇所：・図示　・　　】
		水に接する軽量コンクリートの使用：　・使用する【使用箇所：・図示　・　　】
		軽量コンクリート種類：　・下表による　・図示　・

施工部位	種類	備　考
・屋上防水押え	・1種　・2種	
・浴室防水押え	・1種　・2種	

章	項　目	特記事項
		所要気乾単位容積重量：　・図示　・　kN/m3
		所要スランプ：　※21cm　・18cm　・
		１０．暑中コンクリート
	10.2 材料及び調合	構造体強度補正値(S)：　※6 N/mm　・
		１１．無筋コンクリート
	11.1 一般事項	コンクリートの種別：　※Ⅰ類　・Ⅱ類　・その他；
		適用箇所：　・下表による　・図示

施工部位	設計基準強度(N/mm2)	備　考
	※18　・21	スランプ：※15以下 ※18以下

章	項　目	特記事項
		１２．あと施工アンカー工事
	12.4 穿　孔	埋込配管等の調査方法：　・電磁波レーダ方式　・電磁波誘導法　・図示　・
	12.7 施工確認試験	施工確認試験：　※引張試験機による引張試験　・図示　・
		試験の箇所数：　※3本/1ﾛｯﾄ(径及び仕様每)　・全数　・図示
		１ロットの定義：　※１日に施工されたｱﾝｶｰ数(径及び仕様每)　・図示
		１３．鉄骨工作
	13.10 仮　組	仮組の実施：　・行わない　・行う
		１４．高力ボルト接合
	14.2 摩擦面の性能及び処理	すべり係数試験の実施：　・行わない　・行う
		試験の方法、試験片の摩擦面の状態：　・図示　・
	14.7 締付け	ﾎﾞﾙﾄ長さがねじの呼びの５倍をJIS型ﾎﾞﾙﾄのﾅｯﾄ回転法の回転量：　・120°　・
		１５．溶接接合
	15.3 ***技能資格者	溶接技能者の技量付加試験：　・行わない　・行う
	15.4 溶接の準備	開先の形状：　・図示　・
	15.7 溶接施工	エンドタブの切除の有無：　・有り　・無し
		【エンドタブの切除の適用箇所：・図示　・　　】
		スカラップの形状：　・図示　・
	15.12 溶接部の試験	溶接部の外観試験：　※告示第1464号第二号による試験;
		※JASS 6 附則6(付表3「溶接」);
		完全溶け込み溶接部の超音波探傷試験：　・適用する　・適用しない
		◎工場溶接の場合
		製作工場の社内検査：　・行わない　※行う（全数検査を行い試験結果報告書を提出）
		第三者機関による検査：　※行う　・行わない
		ＡＯＱＬ：　・2.5%　※4.0%
		検査水準：　・第1水準　・第2水準　・第3水準　・第4水準　・第5水準　※第6水準
		◎工事現場溶接の場合
		第三者機関による検査：　※行う　・行わない
		ＡＯＱＬ：　・2.5%　※4.0%
		放射線透過試験：　・適用する　・適用しない
		１７．鉄骨の錆止め塗装
	17.4 塗料の種別	ＳＲＣ造の鋼製スリーブ（鉄骨に溶接されたもの）の内面：
		・図示　・標準仕様書 表7.3.1【※A種　・B種　・C種】　・
		耐火被覆材の接着面：　・図示　・標準仕様書 表7.3.1【・A種　・B種　・C種】　・
		１８．耐火被覆
	18.2 耐火被覆の種類等	耐火被覆材の種類及び性能：　※図示　・
		耐火被覆材の工法：　※図示　・吹付工法　・巻付け工法　・
	18.3 耐火被覆の性能、品質等	耐火被覆の耐火性能：　※図示　・建築基準法に基づく所定の性能
		２０．溶融亜鉛めっき工法
	20.5 溶融亜鉛めっき高力ﾎﾞﾙﾄ接合	摩擦面の処理：　※8.20.5(1)(ｱ)　※8.20.5(1)(ｲ)
		・構造特記仕様書による　・図示
		すべり係数試験の実施：　・行わない　・行う
		試験の方法、試験片の摩擦面の状態：　・構造特記仕様書による　・図示　・

章	項　目	特記事項
8章 耐震改修工事		２１．現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事
	21.2 既存部分の撤去等	既存仕上げの撤去範囲：　※標準仕様書8.21.2(1)(ｱ)による　・協議による　・
		設備配管等の撤去範囲：　※標準仕様書8.21.2(1)(ｲ)による　・
		設備配管等の移設範囲等：　※標準仕様書8.21.2(1)(ｲ)による　・
		既存構造体の撤去範囲：　・図示　・協議による　・
		既存構造体の鉄筋、鉄骨の処置：　・図示　・
	21.3 既存部分の処理	既存部分の目荒しの程度：　・図示　・打継ぎ面の15～30%の凹面を施す
	21.6 鉄筋の加工及び組立	割裂補強筋の仕様：　・図示　・
	21.8 ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み	打込み工法：　・流込み工法　・圧入工法　・図示　・
	21.9 既存構造体との取合い	既存構造体と増設壁との取合い：　※標準仕様書8.21.9による　・図示　・
	21.10 仕上げ	増設後の仕上げ：　・図示　・
		２２．鉄骨ブレースの設置工事
	22.7 既存構造体との取合い	割裂補強筋の仕様：　・図示　・
	22.9 仕上げ	ブレース設置後の仕上げ：　・図示　・
		２３．柱補強工事
	23.1 一般事項	工法の種別：　・構造特記仕様書による
		・溶接金網巻き工法　・溶接閉鎖ﾌｰﾌﾟ巻き工法　・鋼板巻き工法　・帯板巻き付け工法
	23.5 溶接金網巻き工法	外部に面する打放し仕上げの増打厚さ：　・25mm　・20mm　・15mm　・
	溶接閉鎖ﾌｰﾌﾟ巻き工法	型枠セパレーターとしてのシアコネクタの使用：　・適用する　・適用しない
		打込み工法：　・流込み工法　・圧入工法　・図示　・
	23.6 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法	工法の種別：　・鋼板巻き工法　・帯板巻き付け工法
		柱脚の隙間：　・図示　・設ない　・設ける
		柱頭の隙間：　・図示　・設ない　・設ける
	23.7 仕上げ	補強工事後の仕上げ：　・図示　・
		２４．連続繊維補強工事
	24.6 施　工	ひび割れ部の改修工法：　・標準仕様書4.1.4に準ずる　・図示　・
		柱の隅角部の面取りの形状、寸法：　・図示　・
		連続繊維補強材の引張強度試験の数量：　・図示
		連続繊維補強材の付着強度試験の数量：　・図示
		補強工事後の仕上げ：　・図示　・
		２５．耐震スリット新設工事
	25.2 施　工	スリットの幅、及び深さ：　・図示　・
		耐火充填材の仕様箇所、及び仕様：　・図示　・
		遮音充填材の仕様箇所、及び仕様：　・図示　・
		２６．免震改修工事
	26.7 支承材及び減衰材	支承材の材質等：　・図示　・
		減衰材の材質等：　・図示　・
		性能確認試験の項目：　・図示　・
		性能確認試験の数量：　・図示　・
		製品検査の項目等：　・図示　・
	26.10 支承材又は減衰材の設置	材料の防錆処置：　・図示　※製造所仕様による
		材料の設置位置寸法の許容差：　・図示　・製造所仕様による
		割裂補強筋の適用：　・図示　・
	26.13 仕上げ	支承材又は減衰材設置後の仕上げ：　・図示　・
	26.14 耐火被覆	支承材への耐火被覆の適用及び仕様：　・図示　・
	26.15 免震ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝｼﾞｮｲﾝﾄ	免震化部に設置するエキスパンションジョイントの仕様及び工法：
		・図示　・製造所推奨仕様による　・
	26.16 検　査	検査の項目及び数量：　※検査項目は協議の上決定し、数量は全数とする　・図示
		２７．制振改修工事
	27.2 既存部分の撤去等	既存鉄骨の撤去範囲及び方法：　・図示　・
		既存鉄骨の処置：　・図示　・
	27.4 減衰材	減衰材の材質等：　・図示　・
		性能確認試験の項目：　・図示　・
		性能確認試験の数量：　・図示　・
		製品検査の項目等：　・図示　・
	27.6 減衰材の設置	材料の防錆処置：　・図示　※製造所仕様による
		材料の設置位置寸法の許容差：　・図示　・製造所仕様による
		別置の材料の種類、形状、寸法、数量等：　・図示　・製造所仕様による
		割裂補強筋の適用：　・図示　・
	27.8 仕上げ	減衰材設置後の仕上げ：　・図示　・
	27.9 検　査	検査の項目：　・図示　・
		２８．土工事及び地業工事
	28.2 既存杭の撤去等	既存杭の撤去、方法等：　・構造特記仕様書による　・図示　・
		既存杭の杭頭処理等：　・構造特記仕様書による　・図示　・
		既存杭の補強：　・構造特記仕様書による　・図示　・
		既存杭の試験：　・構造特記仕様書による　・図示　・

章	項　目	特記事項
8章 耐震改修工事	28.3 土工事	◎埋戻し及び盛土
		種別：　・A種　・B種　・C種　・D種
		・搬入まさ土（砂礫等の混入のない良質なものとし、水締め、機器による締固めとする）
		◎建設発生土の処理
		・現場説明書による　・構外搬出適切処理　※構内指定場所堆積　・構内指定場所敷均し
		・他現場に搬入（　　）　・
		・指定処分地（
		◎山留めの撤去
		・撤去　・存置　・
		◎試験杭
	28.4 地業工事	試験杭の位置、本数、寸法：　・図示　・
		◎載荷試験
		載荷試験：　・水平試験　・鉛直試験　・
		試験杭の位置、本数、載荷荷重：　・図示　・
		試験方法：　・図示　・
		試験報告書の記載事項等：　・図示　・
		◎地盤の載荷試験
		載荷試験：　・平板載荷試験　・
		試験の位置、載荷荷重：　・図示　・
		試験方法：　・図示　・
		試験報告書の記載事項等：　・図示　・
		◎杭地業は「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」４章［地業工事］による。
	●公４章　地業工事	●公３．既製コンクリート杭地業
	公3.1 一般事項	工法の適用：　・ｾﾒﾝﾄﾐﾙｸ工法(4.3.4)　・特定埋設杭工法(4.3.5)
	公3.2 材　料	材料の強度等による区分：　・
		杭の寸法、継ぎ手の箇所数、杭先端形状：　・図示　・
	公3.4 ｾﾒﾝﾄﾐﾙｸ工法	支持地盤の位置、種類：　・図示　・
		アースオーガーの支持地盤への掘削深さ：　・図示　・
		杭の支持地盤への根入れ深さ：　・図示　・
		根固め液の管理試験：　※標準仕様書及び表4.3.1による　・
		杭周固定液の管理試験：　※標準仕様書及び表4.3.1による　・
	公3.5 特定埋設杭工法	施工法の種類：　・図示　・
		支持地盤の位置、種類：　・図示　・
		杭の水平方向の位置精度：　・図示　・100mm以内　・
		杭の継手の工法：　・ｱｰｸ溶接　・無溶接継手（工法；　　）
		杭頭の処理法：　・図示　・
		公●４．鋼杭地業
	公4.3 材　料	材料の種類：　・SKK400　・SKK490　・SHK400　・SHK490M　・図示
	公4.5 継　手	杭の継手の工法：　・自動ｱｰｸ溶接　・半自動ｱｰｸ溶接　・
		公●５．場所打ちコンクリート杭地業
	公5.1 一般事項	工法の適用：　・ｱｰｽﾄﾞﾘﾙ工法(4.5.5)　・ﾘﾊﾞｰｽ工法(4.5.5)　・ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ工法(4.5.5)
		・場所打ち鋼管ｺﾝｸﾘｰﾄ杭工法(4.5.6)　・拡底杭工法(4.5.6)　・図示
	公5.4 材料その他	帯筋の加工、組立：　・図示　・
		鉄筋の最小かぶり厚さ：　・図示　・60mm　・　mm
		鉄筋かごの補強　・図示　・
		組立鉄筋の節の継手：　※重ね継手　・図示　・
		セメントの種類：　・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ　※高炉ｾﾒﾝﾄB種　・混合ｾﾒﾝﾄ　・図示
		コンクリートの設計基準強度：　・Fc=21N/mm2　・Fc=24N/mm2　・図示
		コンクリートの種別：　・Ａ種　・Ｂ種　・図示
		コンクリートのスランプ：　・18cm　・15cm　・図示
		コンクリートの構造体強度補正値(S)：　・図示　※3N/mm　・
	公5.5 ｱｰｽﾄﾞﾘﾙ工法,ﾘﾊﾞｰｽ工法,及びｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ工法	支持地盤の位置、種類：　・図示　・
		杭孔壁の超音波測定：　・行なわない　・行う
		杭の水平方向の位置精度：　・図示　・100mm以内　・
	公5.6 場所打鋼管ｺﾝｸﾘｰﾄ杭工法及び拡底杭工法	支持地盤の位置、種類：　・図示　・
		杭の水平方向の位置精度：　・図示　・100mm以内　・
		公●６．砂利、砂、捨てコンクリート地業等
	公6.2 材　料	砂地業の種別：　・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂　・
		防湿層の材料：　※ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ t=0.15mm　・
	公6.3 砂利及び砂地業	砂利及び砂地業の厚さ：　・図示　※60mm　・100mm
		・120mm　・150mm　・

令和7年度 入善町公共下水道事業				
工 事 名	吉原第一ポンプ場建築改修工事			
工事箇所	入　善　町　吉　原　地　内			
図　　称	建築改修工事特記仕様書 (7)	縮　尺	1/-	
設計年月日	令和　年　月　日	番　号	A-9	
課　長	係　長	合　議	審　査	設計者
入　善　町　役　場				

Copyright (c) 2013 AATelibrary All Rights Reserved

章	項目	特記事項
8章 耐震改修工事	公6.4 捨てｺﾝｸﾘｰﾄ地業	捨てコンクリートの厚さ： ・図示 ※50mm ・ mm ・120mm ・150mm ・
	公6.5 床下防湿層	床下防湿層の適用： ・適用しない ・適用する ・図示
		床下防湿層の範囲： ・図示 ・
9章 環境配慮改修工事		１．石綿含有建材の除去工事
	(1.1)一般事項	石綿粉じん濃度測定： ・行う (・)行わない
		石綿粉じん濃度測定箇所：図示
		石綿粉じん測定方法： ・空気中の繊維状粒子測定方法(JIS K 3850-1) ・
	1.3 石綿含有吹付け材の除去	除去工法： ※標準仕様書による ・図示 ・
		石綿含有吹付け材の飛散防止措置： ※湿潤化 ・固形化
		石綿含有吹付け材等の処分： ・埋立処分 ・無害化処理
	1.4 石綿含有保温材等の除去	石綿含有保温材等の除去： ・破壊除去 ・原形手ばらし除去 ・図示
	1.5 石綿含有成形板等の除去	石綿含有せっこうボード以外の石綿含有成形板の処分： ・埋立処分 ・中間処理
		養生シートによる作業場の養生： ・行う ・協議による ・行わない
	(1.6)石綿含有仕上塗材の除去	除去方法： (・)集じん装置併用工法【 ・手工具ケレン ・高圧水洗 (・)ディスクグラインダーケレン 】
		・剥離剤併用工法【 ・手工具ケレン ・高圧水洗 ・超音波ケレン 】
		・超音波ケレン工法（HAPAﾌｨﾙﾀｰ付掃除機併用）
		２．外断熱改修工事
	2.2 材 料	断熱材の種類及び厚さ： ・図示 ・
		外装材の種類及び防火性能： ・図示 ・
	2.3 既存外壁の処置	既存外壁仕上げ材の撤去： ・図示 ・全面撤去 ・部分撤去 ・
		既存外壁下地面の清掃： ・図示 ・
		既存外壁下地欠損部の改修方法： ・図示 ・
	2.4 工 法	風圧力に対応した工法： ・製造所仕様による ・図示 ・
		下地調整： ・製造所仕様による ・図示 ・
		断熱材の施工方法： ・製造所仕様による ・図示 ・
		外装材の施工： ・製造所仕様による ・図示 ・
		外装材の取付： ・あと施工ｱﾝｶｰ ・接着剤 ・図示 ・
		通気層： ・有り(厚み； mm) ・無し
		３．断熱・防露改修工事
	3.2 断熱材打込み工法	種 類 ／ 種 別 ／ 厚さ(mm)
		・ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ ／ ・ ／ ・25 ・
		・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ ／ ・3種：土間ｺﾝｸﾘｰﾄ下端 ／ ・25 ・50
		・硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ ／ ・A種 ・ ／ ・
		・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ ／ ・ ／ ・
		接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・
	3.3 断熱材現場発泡工法	材料： ・吹付け硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ ・
		種類： ・A種1 ・
		難燃材： ・1級 ・2級 ・3級
		吹付け厚さ(mm) ・図示 ・25 ・30 ・20
	3.4 断熱材後張り工法	種 類 ／ 種 別 ／ 厚さ(mm)
		・ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ ／ ・ ／ ・25 ・
		・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ ／ ・3種：土間ｺﾝｸﾘｰﾄ下端 ／ ・25 ・50
		・硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ ／ ・A種 ・ ／ ・
		・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ ／ ・ ／ ・
		接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・
		４．屋上緑化改修工事
	4.2 材 料	芝の種類： ・ｺｳﾗｲｼﾊﾞ ・ﾉｼﾊﾞ ・
		地被類の樹種／芽立数／コンテナ径／コンテナ数： ・図示 ・
		緑材、舗装材、水抜き管、マルチング材等： ・図示 ・
	4.3 工 法	建設省告示第1458号に対応した工法： ・
		灌水装置の設置／種類： ・設置しない ・設置する【種類： ・図示 ・ 】
		既存保護層等の撤去： ・撤去しない ・撤去する
	4.4 新植した***の枯補償	新植芝、地被類の枯保証期間： ・１年 ・半年 ・
		５．透水性アスファルト舗装改修工事
	5.2 既存舗装の撤去及び再利用	既存舗装の撤去： ・撤去しない ・撤去する【範囲等： ・図示 ・改修部分全面】
		既存舗装の再利用： ・再利用しない
		・再利用する【範囲等： ・図示 ・改修部分全面】
	5.3 路 床	凍上抑制層の適用： ・適用しない ・適用する
		厚さ： ・車道部 mm ・歩道部 mm
		透水性舗装のフィルター層の適用： ・適用しない ・適用する
		厚さ： 車道部【・150mm ・ mm】 歩道部【・50mm ・ mm】

章	項目	特記事項
9章 環境配慮改修工事	5.3 路 床	路床安定処理の適用： ・適用しない ・適用する
		路床安定処理の方法： ・添加材料による処理 ・図示 ・
		処理内容：【厚さ： ・300mm ・ 】
		【目標CBR； ・5以上 ・ 】
		盛土の種別： ・A種 ・B種 ・C種 ・D種
		フィルター層の材料： ・砂 ・図示 ・
		砂の品質： ・75μmふるい通過量10%以下 ・
		路床安定処理用添加材料： ・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・高炉ｾﾒﾝﾄB種
		・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄ ・生石灰【・特号 ・1号】
		・消石灰【・特号 ・1号】
		路床土のＣＢＲ試験： ・行わない ・行う【・乱した土 ・乱さない土】)
		路床締固め度試験： ・行う ・行わない
	5.4 路 盤	車道部の路盤の厚さ： ・図示 ・150mm ・
		歩道部の路盤の厚さ： ・図示 ・100mm ・
		路盤の材料： ※砕石【※ｸﾗｯｼｬﾗﾝ ・粒度調整砕石】
		※再生材【※ｸﾗｯｼｬﾗﾝ ※ｸﾗｯｼｬﾗﾝ鉄鋼ｽﾗｸﾞ ・粒度調整砕石】
	5.5 舗装の構成及び仕上り	舗装の厚さ(mm)：車道部【・50mm ・ mm】 歩道部【・30mm ・ mm】
		舗装の平坦性： ※著しい不陸のない程度 ・水の滞留がない平滑性
		アスファルトの種類（車道部）： ・図示 ※ﾎﾟﾘﾏｰ改質ｱｽﾌｧﾙﾄⅠ型
		・ﾎﾟﾘﾏｰ改質ｱｽﾌｧﾙﾄⅠに型 ・
		アスファルトの種類（歩道部）： ・図示 ※ｽﾄﾚｰﾄｱｽﾌｧﾙﾄ
	5.9 試 験	アスファルトの抽出試験： ・行う ・行わない

指定メーカー等リスト

部 位	メーカー・品名・品種・品番	備 考

指定工事／業者等リスト

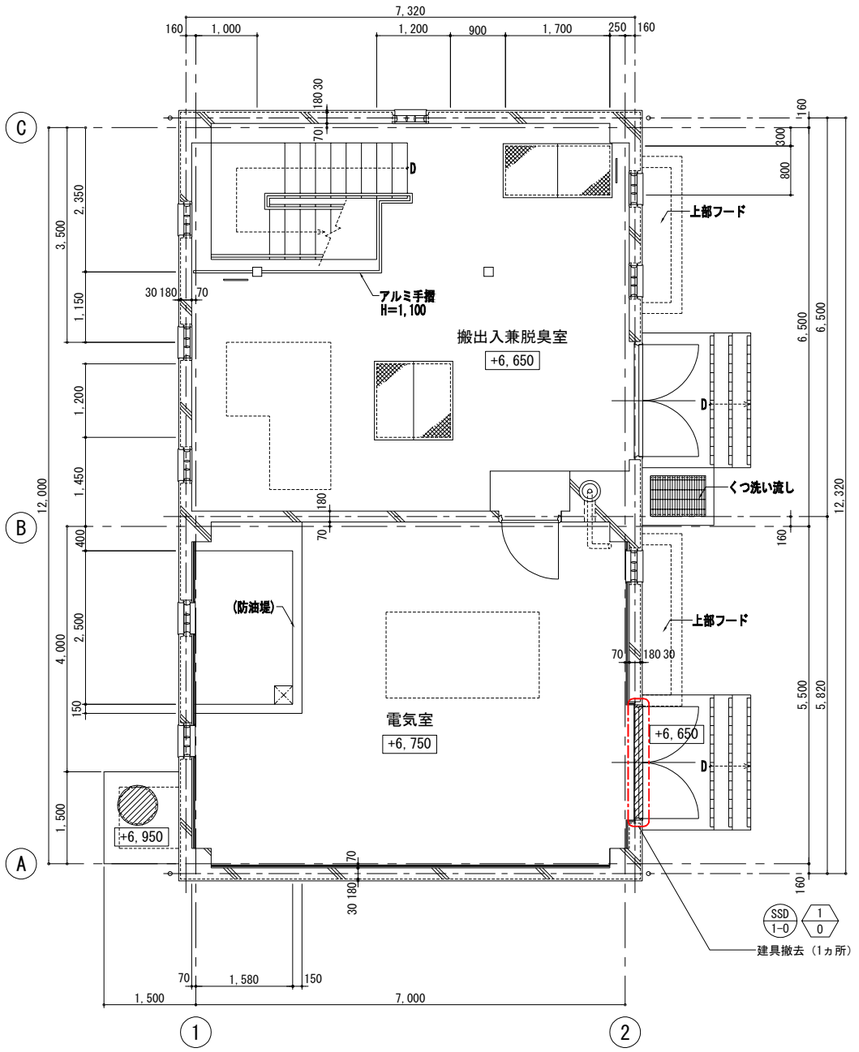
項 目	業者名・連絡先	備 考

施主支給品リスト

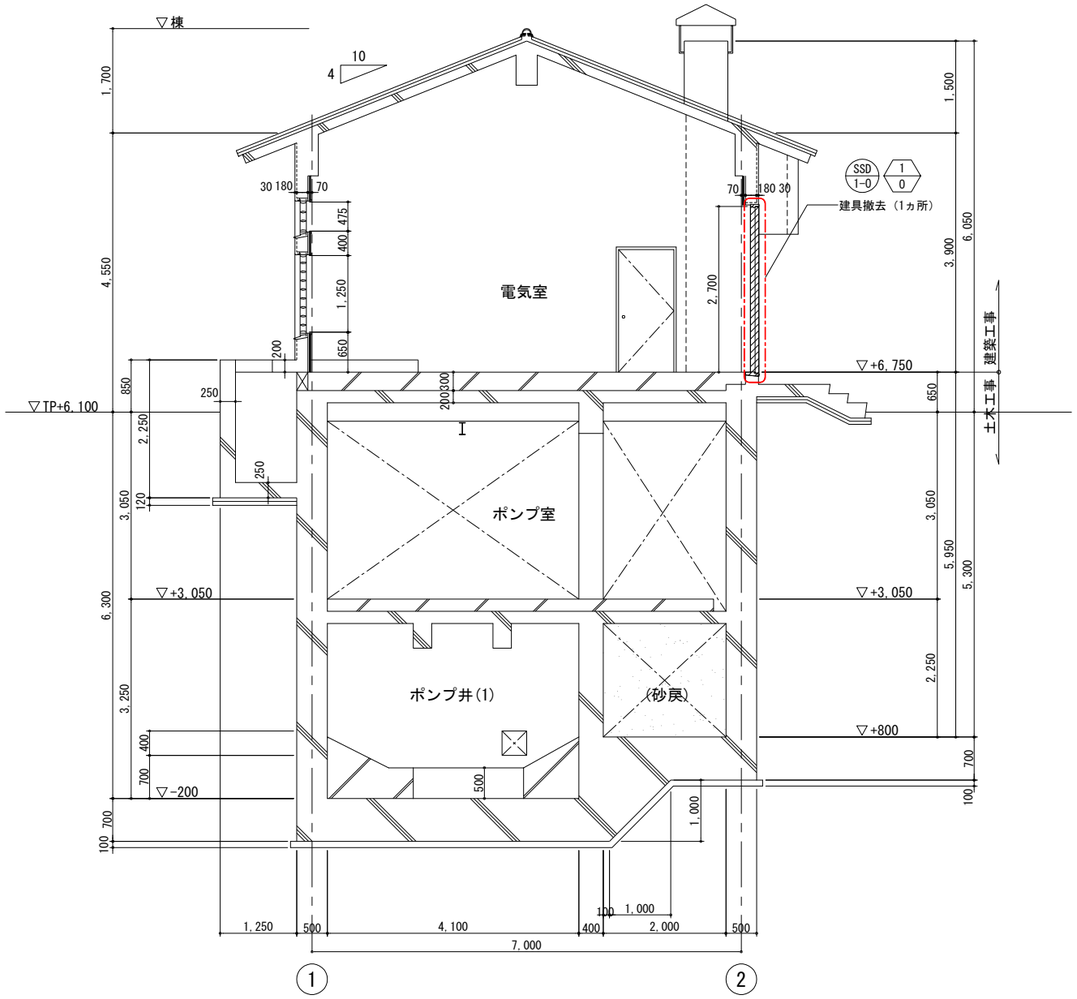
項 目	摘 要	備 考

令和7年度 入善町公共下水道事業				
工 事 名	吉原第一ポンプ場建築改修工事			
工事箇所	入 善 町 吉 原 地 内			
図 称	建築改修工事特記仕様書 (8)	縮 尺	1/-	
設計年月日	令和 年 月 日	番 号	A-10	
課 長	係 長	合 議	審 査	設計者
入 善 町 役 場				

Copyright (c) 2013 AAT+Library All Rights Reserved



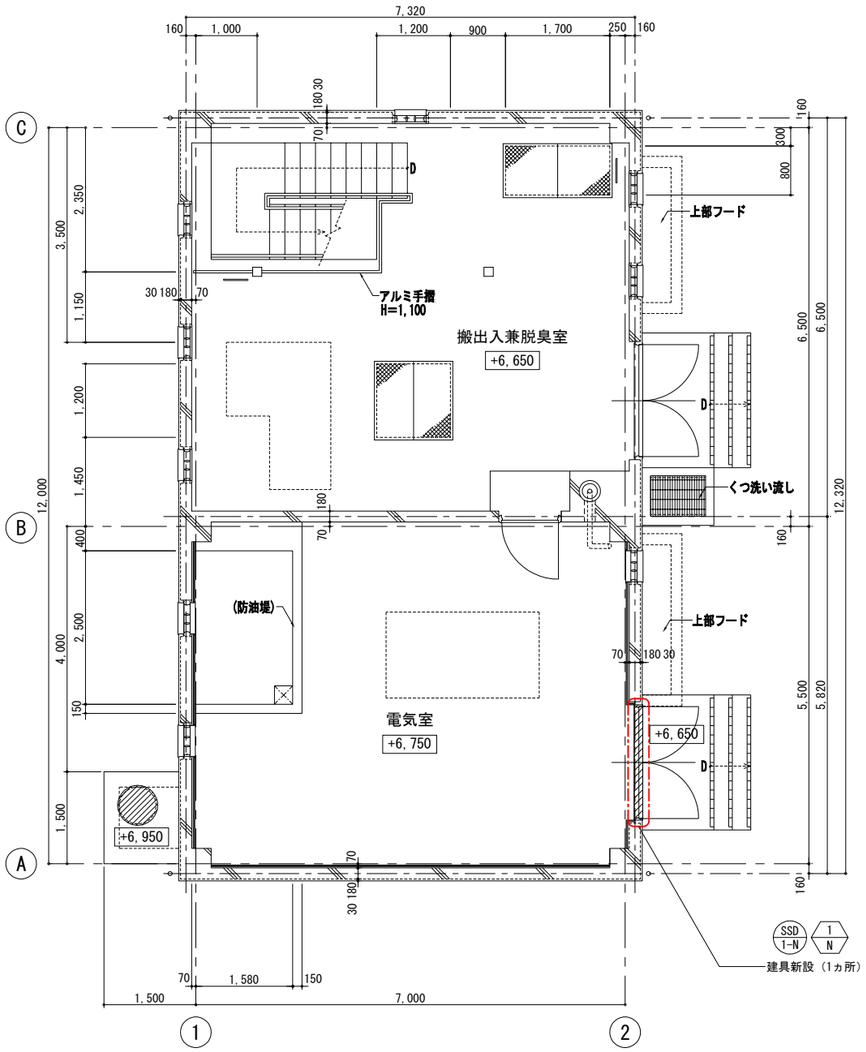
1階平面図 S=1:50
(+6,650、+6,750)



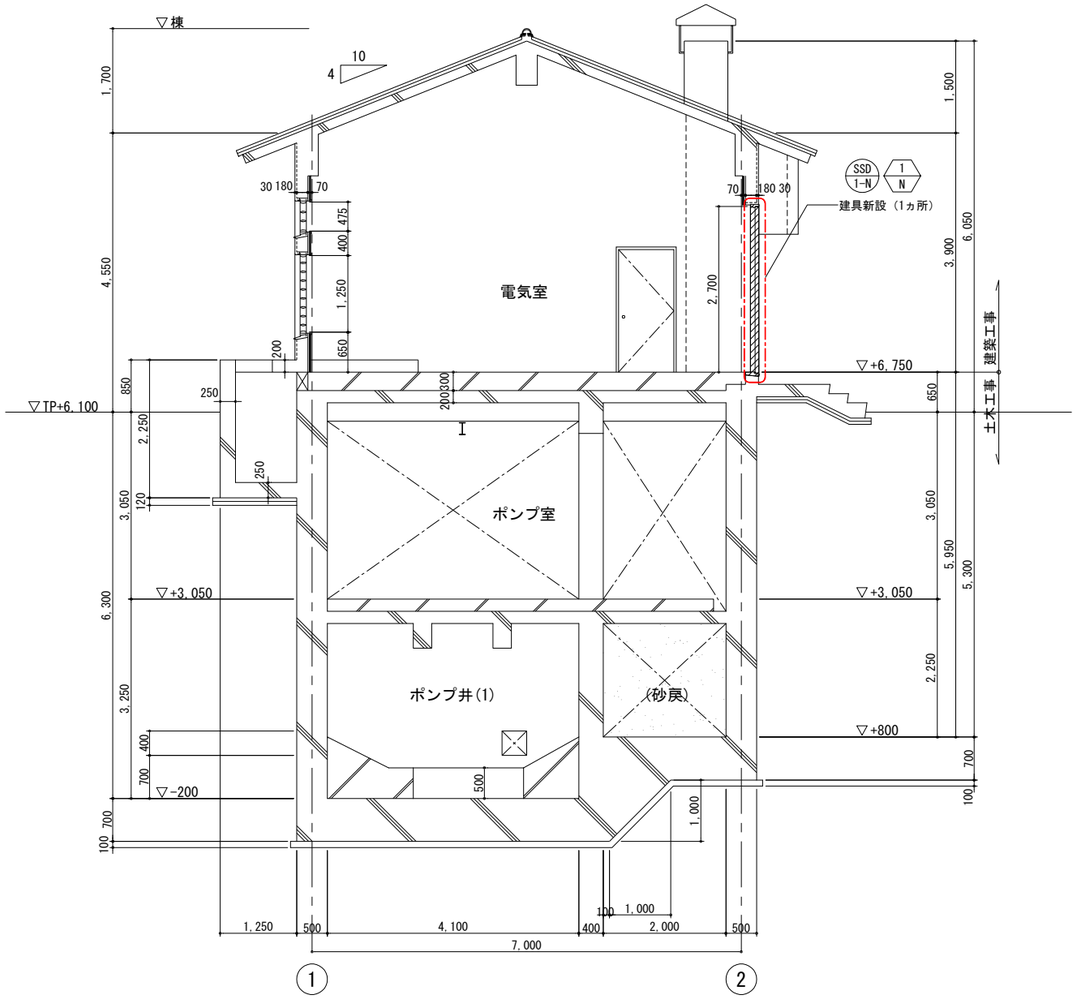
c－c断面図 S=1:50

＜凡例＞
- 改修対象個所を示す
- 撤去範囲を示す
- 撤去建具符号を示す
- 部分詳細図番号を示す

令和7年度 入善町公共下水道事業					
工事名	吉原第一ポンプ場建築改修工事				
工事箇所	入善町吉原地内				
図名	平面図・断面図（改修前）		縮尺	1/50	
設計年月日	令和 年 月 日		番号	A-11	
課長	係長	合議	審査	設計者	
入善町役場					



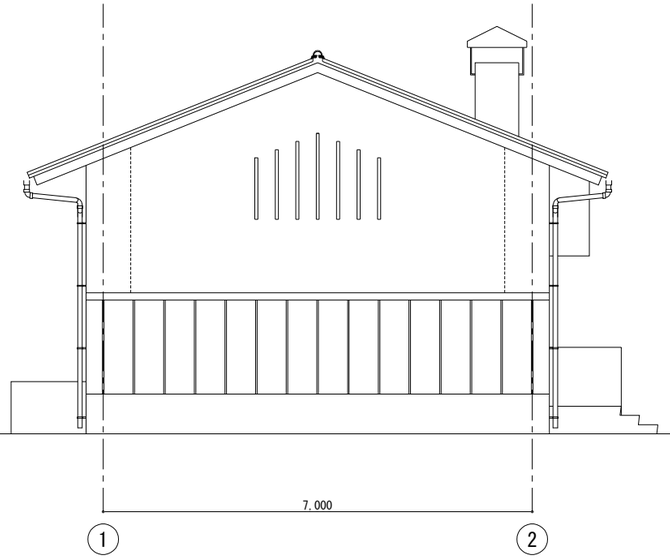
1階平面図 S=1:50
(+6,650、+6,750)



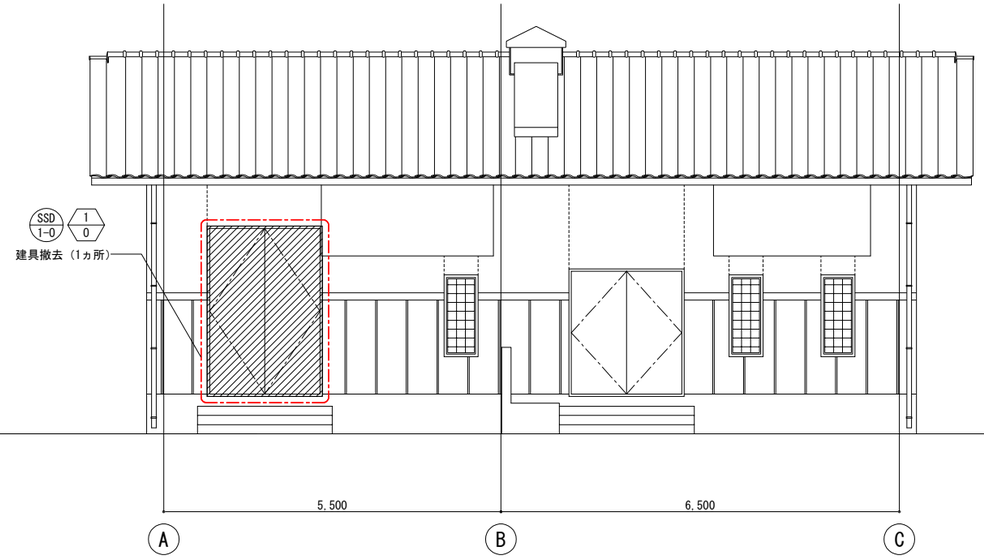
c－c断面図 S=1:50

＜凡例＞
- 改修対象個所を示す
- 撤去範囲を示す
- 撤去建具符号を示す
- 部分詳細図番号を示す

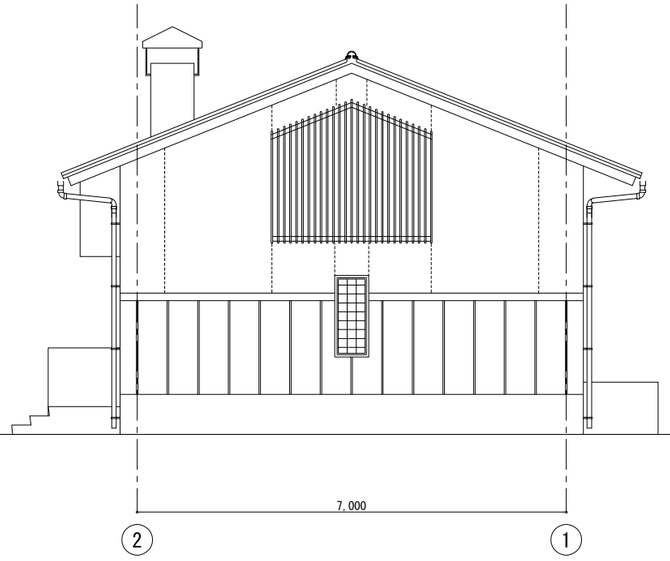
令和7年度 入善町公共下水道事業					
工事名	吉原第一ポンプ場建築改修工事				
工事箇所	入善町吉原地内				
図称	平面図・断面図（改修後）		縮尺	1/50	
設計年月日	令和 年 月 日		番号	A-12	
課長	係長	合議	審査	設計者	
入善町役場					



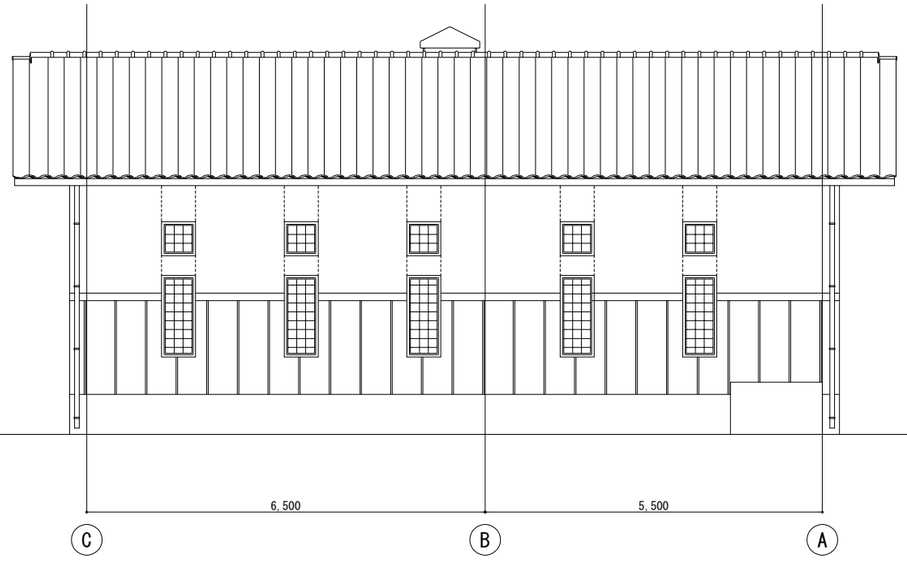
西側立面図　S=1:50



南側立面図 S=1:50



東側立面図 S=1:50

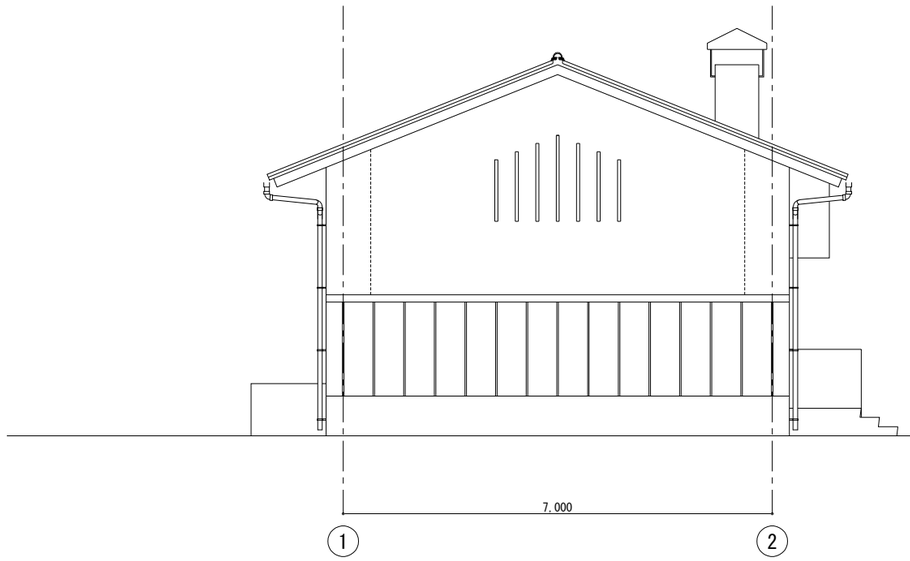


北側立面図 S=1:50

＜凡例＞

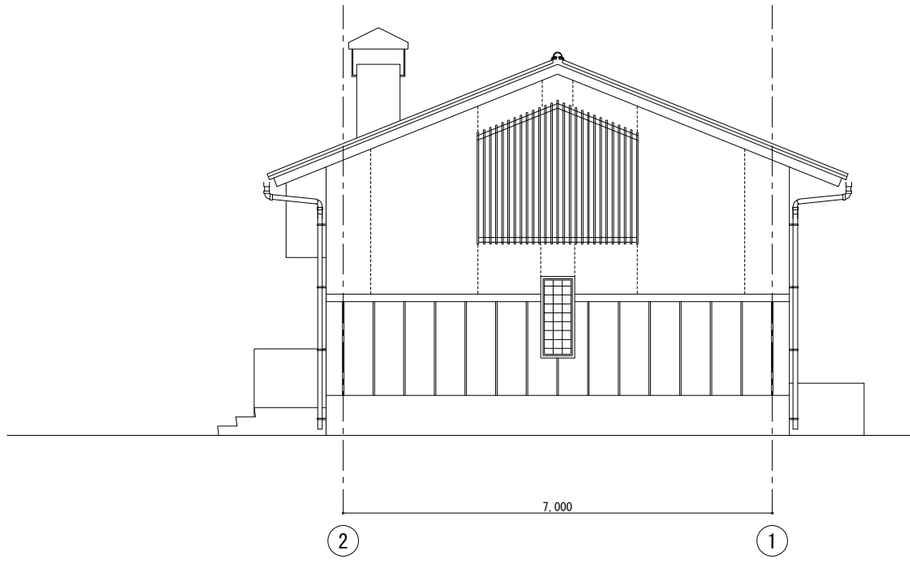
- 改修対象個所を示す
- 撤去範囲を示す
- 撤去建具符号を示す
- 部分詳細図番号を示す

令和7年度 入善町公共下水道事業				
工 事 名	吉原第一ポンプ場建築改修工事			
工事箇所	入 善 町 吉 原 地 内			
図 称	立面図（改修前）		縮 尺	1/50
設計年月日	令和 年 月 日		番 号	A-13
課 長	係 長	合 議	審 査	設計者
入 善 町 役 場				

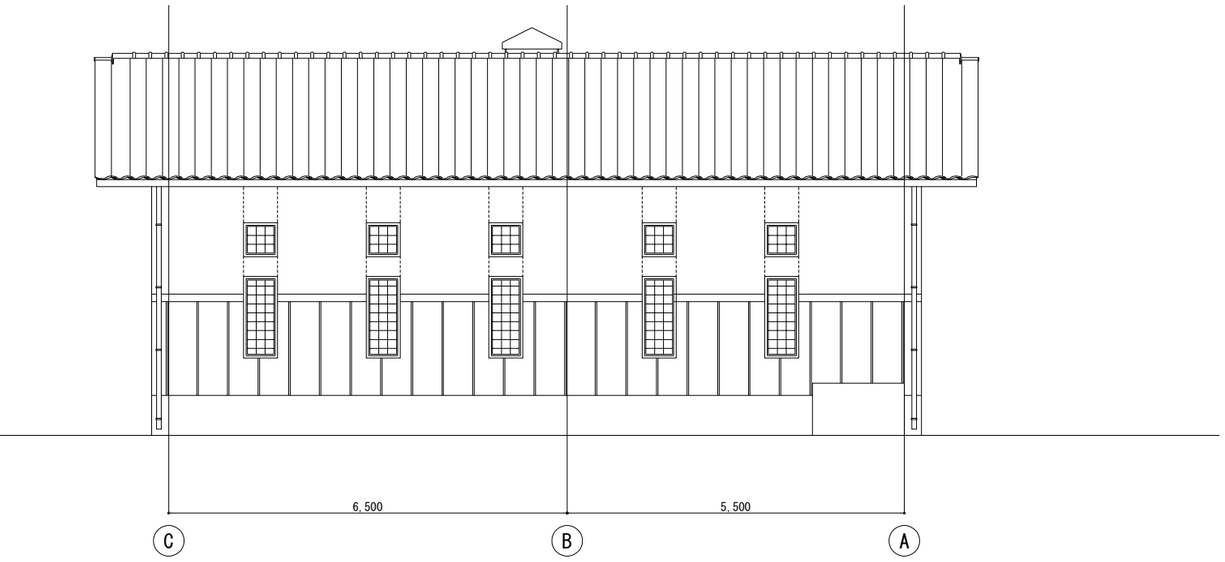


西側立面図　S=1:50

南側立面図 S=1:50



東側立面図 S=1:50



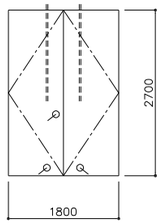
北側立面図 S=1:50

＜凡例＞

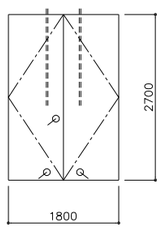
- 改修対象個所を示す
- 撤去範囲を示す
- 撤去建具符号を示す
- 部分詳細図番号を示す

令和7年度 入善町公共下水道事業				
工 事 名	吉原第一ポンプ場建築改修工事			
工事箇所	入 善 町 吉 原 地 内			
図 称	立面図（改修後）		縮 尺	1/50
設計年月日	令和 年 月 日		番 号	A-14
課 長	係 長	合 議	審 査	設計者
入 善 町 役 場				

建具表：撤去（改修前） S=1/50

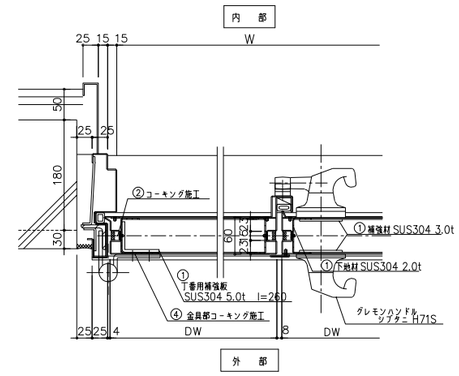
符号・名称・個数	SSD 1-0 ステンレス製両開き気密ドア	撤去：1
場所	1階 電気室	
仕上（枠共）	フッ素樹脂焼付塗装	
建具 見込（ランマ）	60	
建具 硝子（ランマ）		
建具 ガラリ・ガラス		
建具枠 見込取合 沓摺	140 ステンレスSUS304 t=2.0	
枠記号 沓摺（水切）記号	AT−3 k	
建具金物	シリンダー本締錠,大型丁番（3枚）,大型戸当り,あおり止め,額縁 片面及び両締りハンドル,大型上げ落し,DC,その他付属金物一式	
その他	AT：吸音材充填	
形状・寸法		

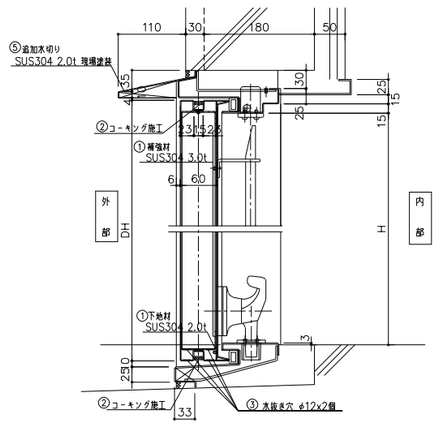
建具表：新設（改修後） S=1/50

符号・名称・個数	SSD 1-N ステンレス製両開き簡易気密ドア	新設：1
場所	1階 機械室	
仕上（枠共）	フラッシュドア（SUS316＋フッ素樹脂塗装（中骨はSUS304））	
建具 見込（ランマ）	60	
建具 硝子（ランマ）		
建具 ガラリ・ガラス		
建具枠 見込取合 沓摺	170 ステンレスSUS316 t=2.0	
枠記号 沓摺（水切）記号	AT−3 k	
建具金物	シリンダー本締錠,大型丁番（5管）3枚,大型戸当たり,あおり止め,大型上落し ステンレス製額縁（フッ素樹脂塗装）,片面及び両締りハンドル,大型上げ落し,DC,その他付属金物一式	
その他	AT：吸音材充填	
形状・寸法		

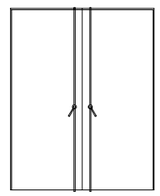
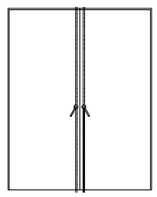
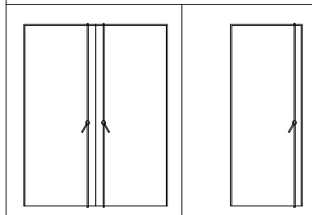
SSD-1-N詳細図 S=1/5

注意＊表面材を 四辺折り曲げを行う事により、表面に反宝み が発生することがある。



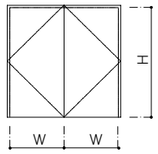


大型、気密ドアの仕様 D−01−1, D−02−1

	大型鋼製建具(外部用)	大型鋼製建具(内部用)	気密型鋼製建具	
姿図				
	H ＞ 2,400 W ＞ 950	H ＞ 2,400 W ＞ 950	H ≧ 2,100 W ≧ 950	H ≧ 2,100 W ≧ 950
一般丁番（150） 大型丁番	形状別扉見込寸法、丁番表による。		形状別扉見込寸法、丁番表による。	

※ 扉面積2.5㎡ 以上の場合は大型戸当り、あおり止めを設ける。 [D−01−1]

ドア見込み及び丁番表

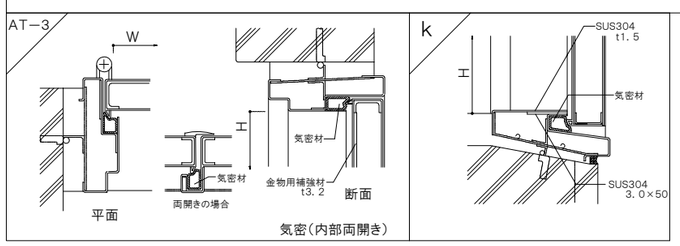


1）[ ]内数値は扉の見込寸法を示す。

2）※は「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」による。

[D−02−1]

H＼W	950以下		1,250未満		1,500未満		1,750未満	
	大型	気密	大型	気密	大型	気密	大型	気密
2,000未満	※	[40] 一般(150) 3枚	[40] 一般(150) 3枚	[40] 一般(150) 3枚	[50] 大型 3枚	[50] 大型 3枚	[60] 大型 3枚	[60] 大型 3枚
2,400以下	※	[50] 一般(150) 3枚	[40] 一般(150) 3枚	[50] 大型 3枚	[50] 大型 3枚	[50] 大型 3枚	[60] 大型 3枚	[60] 大型 3枚
3,000未満	[50] 大型 3枚	[60] 大型 3枚	[60] 大型 3枚	[60] 大型 3枚	[60] 大型 3枚	[60] 大型 3枚	[60] 大型 3枚	[80] 大型 3枚
3,500未満			[60] 大型 3枚	[80] 大型 4枚	[60] 大型 3枚	[80] 大型 4枚	[60] 大型 3枚	[80] 大型 4枚



共通事項

1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠(内部サムターン)とし内部は本締り付きモノロックとする。但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。
2. パイプスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠(特記なき限り同一キー)とする。(内部サムターン付)
3. 便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。
4. AH、FHを除きDCの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め(防火戸は除く)をつける。壁仕上げボード類等の場合は床付とする。(但し、通行に支障のあるものは除く。)
5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。
6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から1,500以内とする。
7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。
8. 特記なき限り内部建具ガラリはイ型とする。
9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは40mmとする。
10. 防火戸の位置は建具配置図による。
11. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行なわないものとする。
12. 階段室の施錠を必要としない箇所は空錠とする。
13. 特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付とする。
14. 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。
15. 大型建具の補強材はアングル(L−50×50×6)の通し物とする。

建具略号

種別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッドドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
アルミニウム製	AD	AW	AG	AOD			AS	aW
鋼製	SD	SW	SG	SOD			SS	
鋼製軽量	LD						LS	
ステンレス製	SSD	SSW	SSG				SSS	
木製	WD	WW	WG		P	H		

ガラス略号

F	型板ガラス
P	フロート板ガラス
N	網入型板ガラス
NP	網入みがき板ガラス

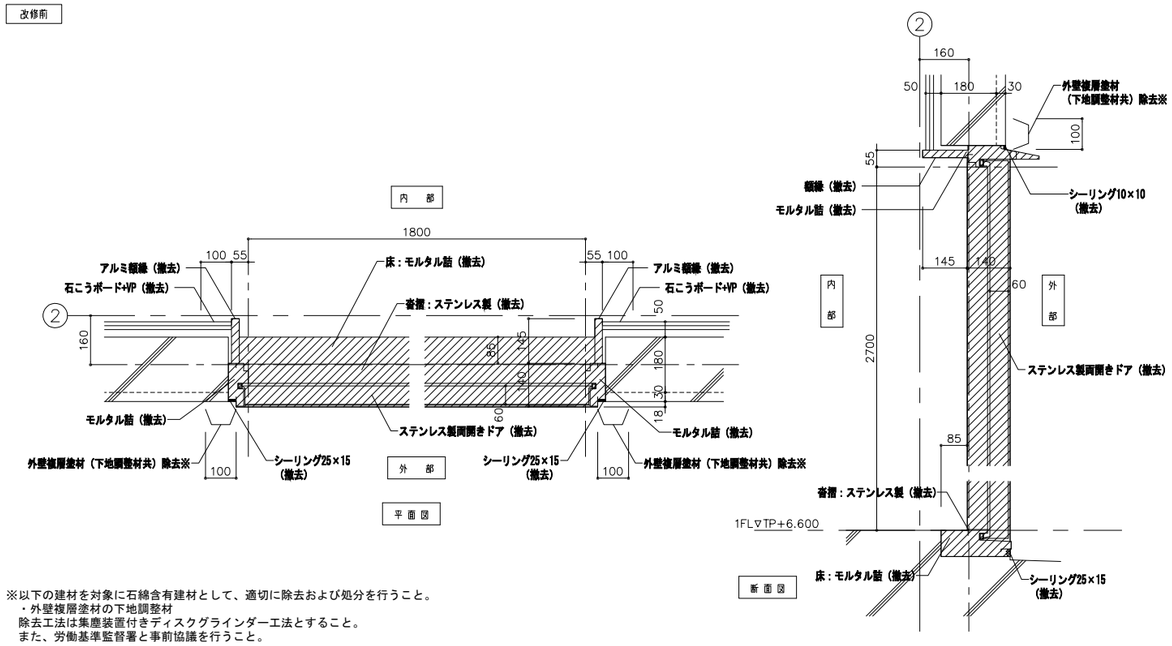
金物略号

DC	ドアクローザー
AH	オートヒンジ
FH	フロアヒンジ
PH	ピボットヒンジ

令和7年度 入善町公共下水道事業				
工事名	吉原第一ポンプ場建築改修工事			
工事箇所	入善町吉原地内			
図称	建具表・建具詳細図	縮尺	1/50	
設計年月日	令和 年 月 日	番号	A-15	
課長	係長	合議	審査	設計者
入善町役場				

1/0 ステンレス製両開きドア廻り詳細図（改修前）　1／10

改修前

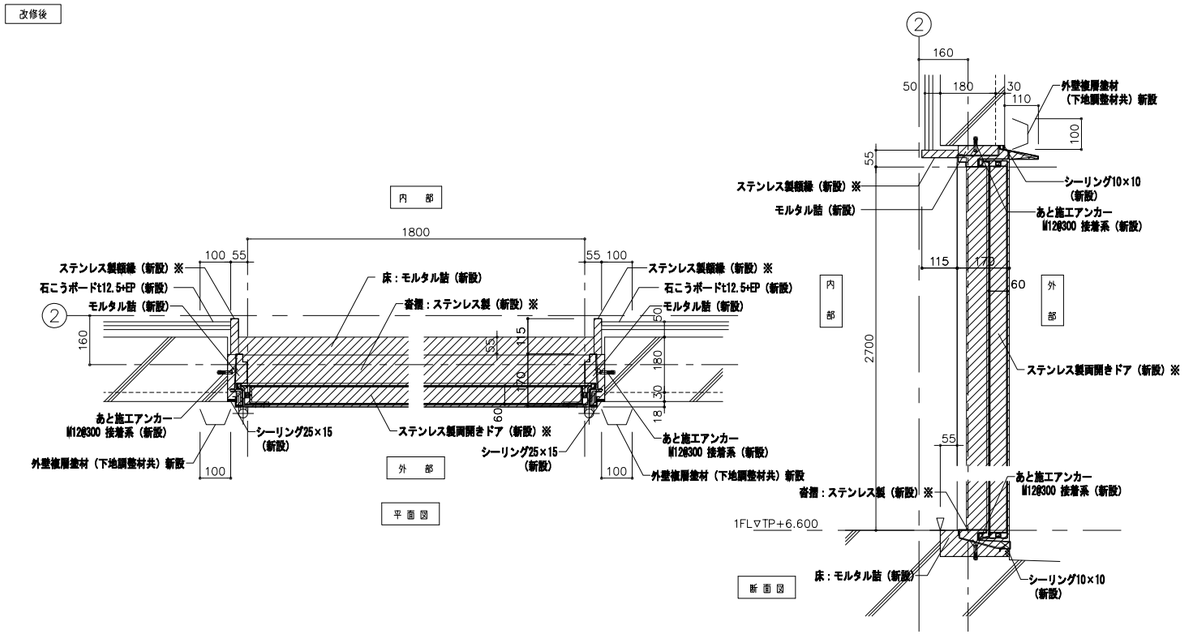


※以下の建材を対象に石綿含有建材として、適切に除去および処分を行うこと。
・外壁複層塗材の下地調整材
除去工法は集塵装置付きディスクグラインダー工法とすること。
また、労働基準監督署と事前協議を行うこと。

注　記	印は仕上撤去部を示す。	

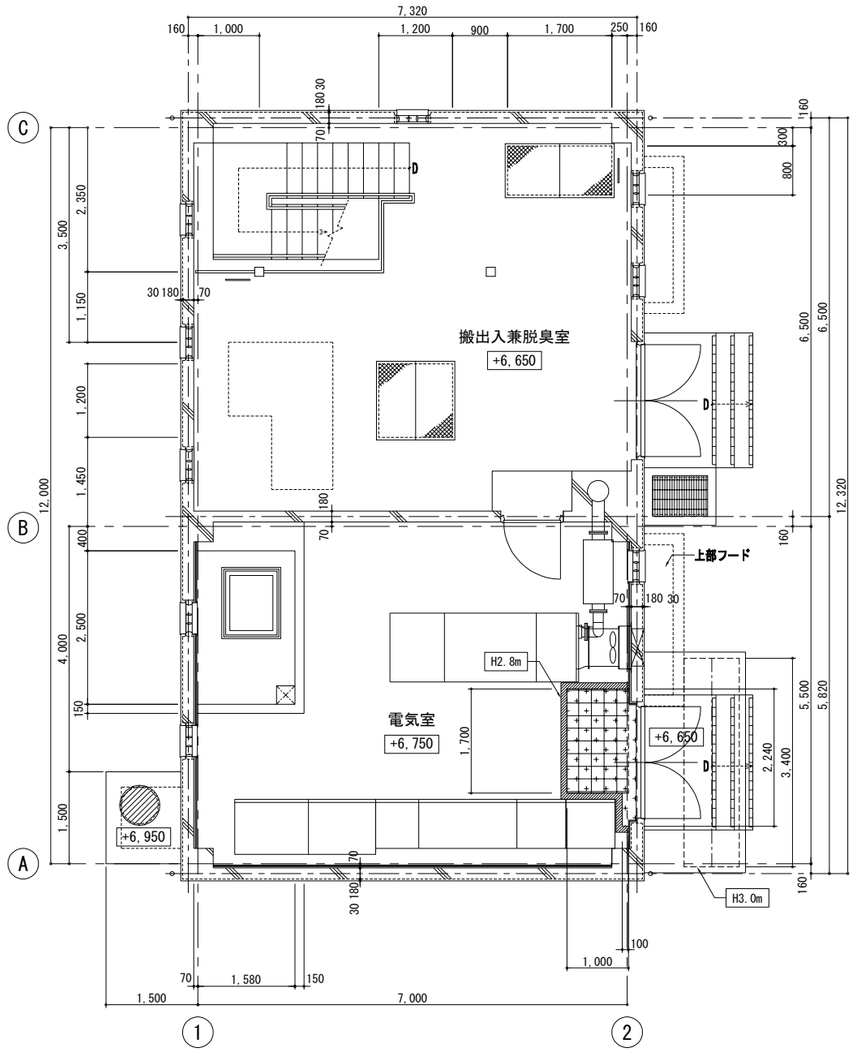
1/N ステンレス製両開きドア廻り詳細図（改修後）　1／10

改修後



注　記	印は仕上新設部を示す。	収まり・大きさ等は、現場にて再度計測の上チェックの事。
	※印はメーカー工事とする。	

令和7年度 入善町公共下水道事業				
工 事 名	吉原第一ポンプ場建築改修工事			
工事箇所	入　善　町　吉　原　地　内			
図　　称	改修詳細図		縮 尺	1/10
設計年月日	令和　年　月　日		番 号	A-16
課 長	係 長	合 議	審 査	設計者
入　善　町　役　場				



1階平面図 S=1:50
(+6,650、+6,750)

＜注記＞
- 仮設間仕切り、足場等は現場監督員と調整のこと。
- 仮設間仕切りは気密性を確保するため、継目、床、天井部にテープを貼ること。
- 仮設間仕切り内施工スペースは床養生シート敷きとすること。
- 特記なき限り仮設間仕切内の設備機器・盤等は養生のこと。

※この「参考図面」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料である、したがって、「参考図面」は請負契約上の拘束力を生じるものでなく、受注者は施工条件、地質条件等を十分の責任において定めるものとする。ただし、当初契約時の想定と現地条件、施工条件が異なる場合には、監督職員と協議の対象となる。

＜凡例＞
- 通路養生シート敷
- 仮設間仕切壁　B種
- 外部枠組本足場900枠＋壁養生シート（防音）
- 内部脚立足場H4m以下

令和7年度 入善町公共下水道事業					
工事名	吉原第一ポンプ場建築改修工事				
工事箇所	入善町吉原地内				
図名	仮設計画平面図（参考図）		縮尺	1/50	
設計年月日	令和　年　月　日		番号	A-17	
課長	係長	合議	審査	設計者	
入善町役場					